

平成17年度

# 千曲市埋蔵文化財調査報告書

2007

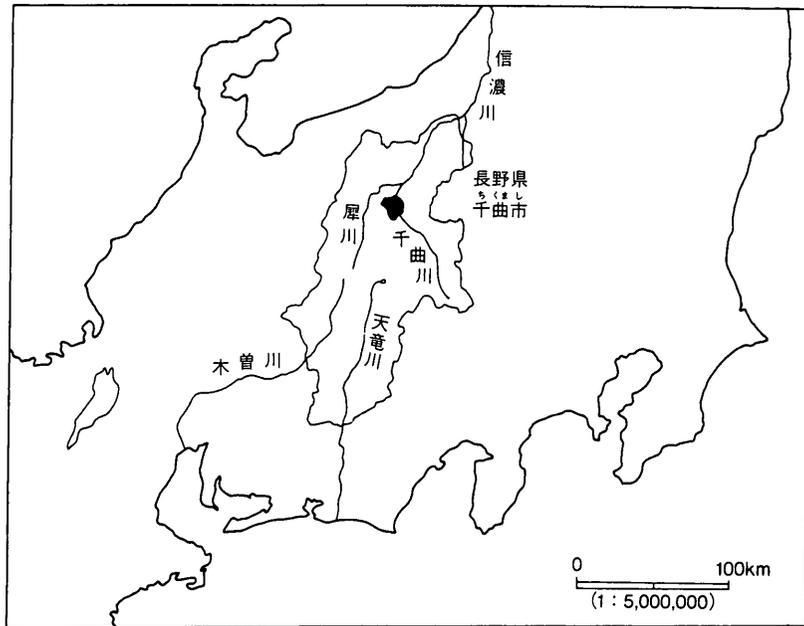
千曲市教育委員会

平成17年度

# 千曲市埋蔵文化財調査報告書

2007

千曲市教育委員会



千曲市の位置

例 言

目 次

- 1 本書は、千曲市教育委員会が平成17年度に実施した、埋蔵文化財調査報告書である。
- 2 調査は千曲市教育委員会生涯学習課が主体となって実施し、職員が担当して行った。  
千曲市教育委員会事務局  
教育長 安西嗣直  
教育部長 塚田保隆  
生涯学習課長 黒岩 修  
文化財係長 矢島宏雄  
文化財係 小野紀男・寺島孝典  
森將軍塚古墳館学芸係長 佐藤信之
- 3 杉山古墳群の執筆については佐藤が担当し、その他の遺跡の執筆と本書編集は寺島が行った。
- 4 本文中の図版の座標地及び方位は、平面直角座標系第Ⅷ系で示している。
- 5 各遺跡の調査によって出土した遺物のほか、実測図・写真等調査に係るすべての資料は、千曲市教育委員会が保管している。  
なお、調査によって得られた資料は、各遺跡に付した調査記号を記して保管されている。

例言・目次

埋蔵文化財調査概要…………… 1

平成17年度埋蔵文化財調査一覧…………… 2

発掘調査

(1) 屋代遺跡群城ノ内遺跡 …………… 5

(2) 杉山古墳群 …………… 6

(3) 屋代遺跡群大境遺跡 …………… 8

(4) 更埴条里水田址五十里地点 …………… 9

I 調査の概要 …………… 9

II 遺跡の環境 …………… 10

III 遺構と遺物 …………… 12

IV まとめ …………… 16

(5) 栗佐遺跡群琵琶島遺跡 …………… 20

(6) 町裏遺跡 …………… 21

(7) 長楽寺 …………… 22

(8) 更埴条里水田址返町地点 …………… 23

I 調査の概要 …………… 23

II 遺跡の環境 …………… 24

III 遺構と遺物 …………… 26

IV まとめ …………… 28

試掘調査

(1) 大池南遺跡 …………… 30

報告書抄録

# 埋蔵文化財調査概要

平成17年度に千曲市教育委員会が実施した埋蔵文化財に関する調査は、発掘調査が8件、試掘調査が4件、立会調査が33件の、合計45件となる。

長引く景気低迷からの回復傾向が見られ始めた平成17年度は、民間の開発も緩やかにではあるが活発になってきており、これら開発に伴う調査も年々増加傾向にある。特に携帯電話無線基地局（アンテナ塔）の建設工事が昨年度から急激に増加してきており、今年度も1件の発掘調査と2件の試掘調査を実施している。

発掘調査8件の内訳は、公共事業によるものが3件、民間開発によるものが3件、学術発掘が2件である。

公共事業はすべて道路改良に伴う発掘調査であるが、うち2件は昨年度から継続して実施している事業である。

ふるさと農道桑原中道線改良工事に伴う町裏遺跡の発掘調査は平成15年度から開始し、今年度で3ヵ年目となる。奈良時代から中世に至る遺構を検出しているほか、遺構は伴わないものの縄文時代の石器が出土している。

昨年度から開始した千曲建設事務所発注の旧国道線改良工事に伴う粟佐遺跡群の発掘調査は、現道の両側を拡幅する事業であり住宅が密集している地域のため、用地買収が完了し、ある程度の面積が確保できた段階での発掘調査実施となる。よって、単年度に行える調査面積は僅かなもので、長期間の継続調査が予想される。

市道日詰南線道路改良工事に伴う更埴条里水田址五十里地点の発掘調査は幅7m、長さ約100mを測り、平安時代住居跡6棟と溝跡、中世以降の水田跡などが検出されている。

学術発掘は、平成16年度から継続して実施している杉山古墳群の範囲確認調査に加え、今年度は名勝「姨捨（田毎の月）」整備事業に係る確認調査を実施した。

杉山古墳群の調査は、平成16年度に引き続き積石塚の確認調査を行い、平成18年度に調査を終了する予定である。名勝「姨捨（田毎の月）」整備事業では、古絵図に描かれている石積み階段の現状を把握するための調査で、観音堂へ登る15段の石段がほぼ原形をとどめていることが確認された。

試掘調査は今年度4件で、公共事業によるものが1件、民間開発によるものが3件である。

大池南遺跡の試掘調査は各バンガローを結ぶ歩道を建設するもので、7箇所を設定した試掘トレンチで調査を行い、縄文時代土器片と石器が出土したが遺構の確認までには至らなかった。また、他3件の試掘調査では埋蔵文化財は発見されなかった。

立会調査33件は主に公共事業に伴うもので、道路改修（舗装工）や水路改修、水道管や下水管の埋設に伴うものがほとんどである。

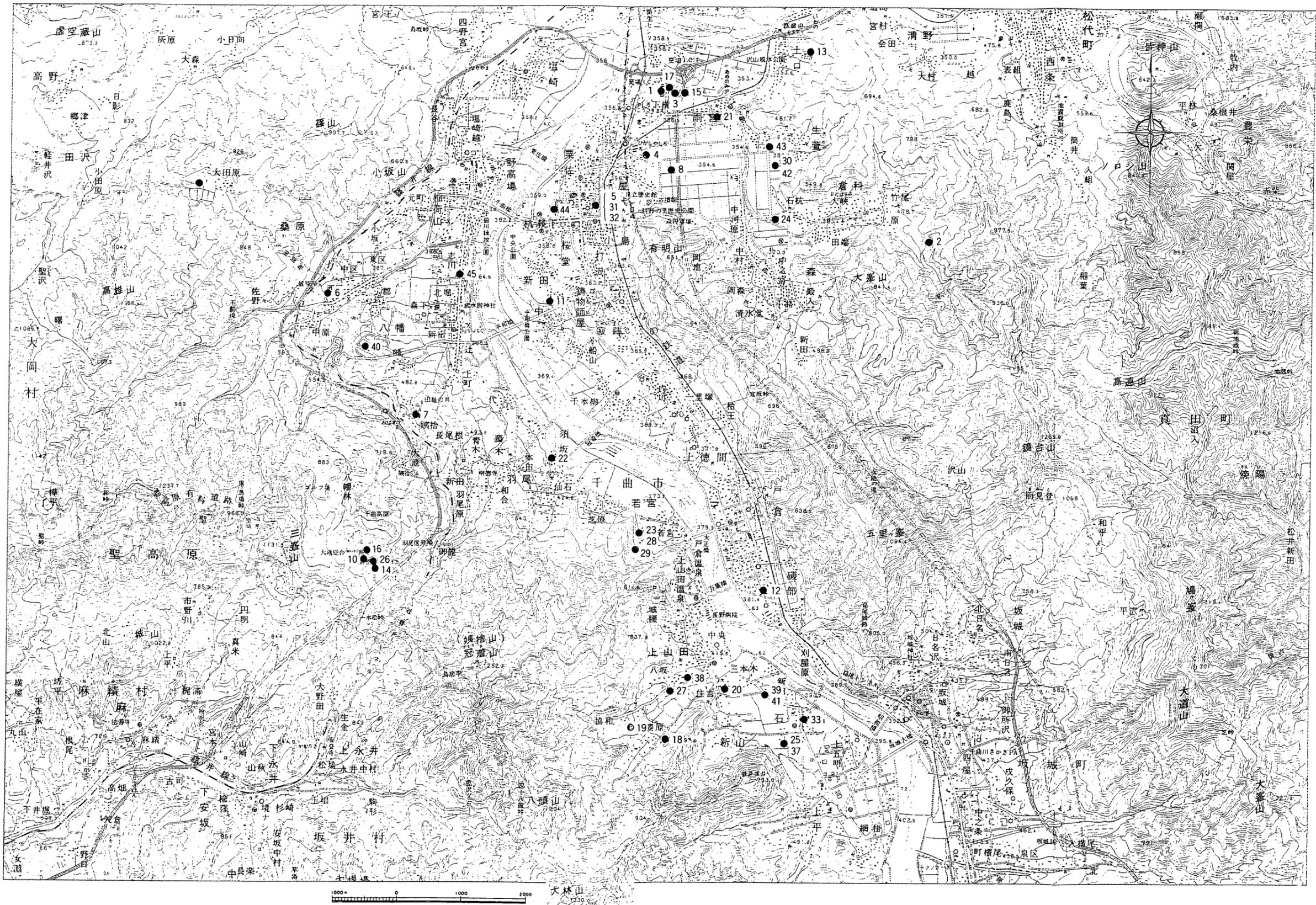
平成16年度に実施した国道18号バイパス代替地（上町団地）建設工事に伴う東條遺跡の発掘調査報告書を今年度刊行した。

国道18号バイパス（坂城更埴バイパス）建設工事や力石バイパス建設工事に伴う発掘調査については、長野県埋蔵文化財センターにより随時実施されているが、平成17年12月23日に国道18号バイパスの稲荷山地区から八幡地区の一部区間が開通したことにより、バイパス沿いの各種開発にも拍車がかかることが予想されるため、今後周辺の動向にも注視していかなければならない。

平成17年度 埋蔵文化財調査一覧

番号	遺跡名	所在地	調査原因	原因者	調査期間	調査面積	備考
<b>発掘調査</b>							
1	屋代遺跡群城ノ内遺跡	屋代	民間＝オイルタンク埋設	長野電子工業(株)	17.6.6～17.6.9	70m <sup>2</sup>	
2	杉山古墳群	倉科	学術＝範囲確認調査	千曲市(森將軍塚古墳館)	17.8.29～17.9.17	150m <sup>2</sup>	国・県補助事業
3	屋代遺跡群大境遺跡	屋代	民間＝工場建設	オリオン機械工業(株)	17.10.3～17.10.25	150m <sup>2</sup>	
4	更埴条里水田址五十里地点	屋代	公共＝道路改良	千曲市(建設課)	17.10.18～17.11.11	700m <sup>2</sup>	
5	粟佐遺跡群琵琶島遺跡	小島	公共＝道路改良	千曲建設事務所	17.11.14～17.11.25	95m <sup>2</sup>	H16年度から継続
6	町裏遺跡	桑原	公共＝道路改良	千曲市(建設課)	17.12.5～17.12.13	270m <sup>2</sup>	H15年度から継続
7	長楽寺	八幡	学術＝範囲確認調査	千曲市(生涯学習課)	18.3.8～18.3.23	20m <sup>2</sup>	国・県補助事業
8	更埴条里水田址返町地点	屋代	民間＝携帯基地局建設	ボーダフォン(株)	18.3.13～18.3.22	67m <sup>2</sup>	
<b>試掘調査</b>					調査日	調査内容・所見・備考	
9	下日向遺跡	桑原	民間＝携帯基地局建設	KDDI(株)	17.6.3	埋蔵文化財なし	
10	大池南遺跡	八幡	公共＝バンガロー周辺整備	千曲市(農林課)	17.9.28～17.9.30	Tr7箇所	縄文土器・石器出土
11	来光塚遺跡	新田	民間＝携帯基地局建設	(株)エス・ティ・ティ・ドコモ	18.1.20	Tr2箇所	埋蔵文化財なし
12	清雲寺遺跡	磯部	民間＝アパート建設	個人	18.3.16	埋蔵文化財なし	
<b>立会調査</b>							
13	土口北山古墳群	土口	民間＝宅地造成	更埴建設(株)	17.5.11	掘削－60cm	埋蔵文化財なし
14	大池南遺跡	八幡	公共＝テント増設	千曲市(生涯学習課)	17.5.18	掘削－80cm	遺構・遺物なし
15	屋代遺跡群窪河原遺跡	屋代	民間＝工場建設	山崎製パン(株)	17.6.22	掘削－100cm	遺構・遺物なし
16	大池南遺跡	八幡	公共＝護岸改修	千曲市(農林課)	17.6.27	造成＋20cm	
17	屋代遺跡群城ノ内遺跡	屋代	民間＝駐車場造成	千代田製作所(株)	17.7.13	掘削なし	
18	堤林遺跡	新山	公共＝道路改良	千曲市(農林課)	17.8.3	掘削－20cm	埋蔵文化財なし
19	漆原遺跡	新山	公共＝水道管理設	上田水道管理事務所	17.8.5	掘削－90cm	遺構・遺物なし
20	力石条里遺跡群	上山田	民間＝宅地造成	塚原建設(株)	17.9.1	掘削－20cm	遺構・遺物なし
21	屋代遺跡群	雨宮	公共＝側溝整備	千曲建設事務所	17.9.25	掘削－60cm	埋蔵文化財なし
22	須坂遺跡	須坂	公共＝道路改良	千曲市(建設課)	17.9.29	埋蔵文化財なし	
23	若宮西遺跡	若宮	公共＝水道管理設	上田水道管理事務所	17.10.4	掘削－80cm	埋蔵文化財なし
24	倉科条里水田址	倉科	公共＝水道管理設	上田水道管理事務所	17.10.6	掘削－60cm	埋蔵文化財なし
25	力石条里遺跡群	力石	公共＝農業排水路改修	千曲市(農林課)	17.11.14	掘削－90cm	遺構・遺物なし
26	大池南遺跡	八幡	公共＝下水管理設	千曲市(生涯学習課)	17.11.18～17.11.22	掘削－110cm	埋蔵文化財なし
27	釜屋遺跡	上山田	公共＝除雪車両庫建設	千曲市(上山田庁舎建設課)	17.12.5	掘削－20cm	埋蔵文化財なし
28	若宮西遺跡	若宮	公共＝水道管理設	川中島水道管理事務所	17.12.26	掘削－80cm	埋蔵文化財なし
29	西洞古窯址	若宮	公共＝水道管理設	川中島水道管理事務所	17.12.26	掘削－60cm	埋蔵文化財なし
30	生萱水田址	生萱	公共＝農業用排水路改修	千曲市(農林課)	18.1.6	掘削－40cm	遺構・遺物なし
31	粟佐遺跡群琵琶島遺跡	小島	公共＝道路改良	千曲建設事務所	18.1.11	掘削－100cm	発掘調査済み
32	粟佐遺跡群琵琶島遺跡	小島	公共＝水道管理設	川中島水道管理事務所	18.1.11	掘削－100cm	発掘調査済み
33	力石条里遺跡群力石西沖遺跡	力石	公共＝水道管理設	上田水道管理事務所	18.1.12	掘削－120cm	遺構・遺物なし
34	力石条里遺跡群	力石	公共＝水路改修	千曲市(農林課)	18.1.19	掘削－120cm	遺構・遺物なし
35	八幡遺跡群	八幡	公共＝防火水槽建設	千曲市(消防防災課)	18.1.24	掘削－270cm	埋蔵文化財なし
36	粟佐遺跡群宮裏遺跡	屋代	公共＝道路改良	千曲建設事務所	18.1.25	掘削－50cm	遺構・遺物なし
37	力石条里遺跡群	力石	公共＝水路改修	千曲市(農林課)	18.2.7	掘削－130cm	遺構・遺物なし
38	水上遺跡	上山田	公共＝防火水槽建設	千曲市(消防防災課)	18.2.7	掘削－110cm	埋蔵文化財なし
39	力石条里遺跡群	力石	公共＝水道管理設	上田水道管理事務所	18.2.8	掘削－60cm	遺構・遺物なし
40	石原A遺跡	八幡	民間＝倉庫建設	日本梱包運輸倉庫(株)	18.2.9	掘削－50cm	埋蔵文化財なし
41	力石条里遺跡群	力石	公共＝水道管理設	上田水道管理事務所	18.2.23	掘削－80cm	遺構・遺物なし
42	生萱水田址	生萱	公共＝用水路改修	千曲市(農林課)	18.2.28	掘削－110cm	遺構・遺物なし
43	生萱水田址	生萱	公共＝公園造成	千曲市(都市計画課)	18.3.6	掘削－90cm	遺構・遺物なし
44	更埴田中沖遺跡	杭瀬下	公共＝震度計埋設	千曲市(消防防災課)	18.3.9	掘削－60cm	遺構・遺物なし
45	八幡遺跡群横まくり遺跡	八幡	公共＝下水管理設	千曲川流域下水道建設事務所	18.3.20	掘削－200cm	遺構・遺物なし

\* 表中の番号は、第1図中の調査位置を示した番号と一致する。



第1図 平成17年度埋蔵文化財調査地点位置図 (1:60,000)

# 発掘調査

## (1) 屋代遺跡群 城ノ内遺跡

### I 調査の概要

1 調査遺跡名	屋代遺跡群城ノ内遺跡 (千曲市遺跡台帳 No. 31-7	調査記号 SRNO)
2 所在地	千曲市大字屋代1313番地	
3 土地所有者	長野電子工業株式会社 代表取締役社長 市川和成	
4 調査原因	長野電子工業株式会社オイルタンク移設工事	
5 事業者	長野電子工業株式会社 代表取締役社長 市川和成	
6 調査の内容	発掘調査 70m <sup>2</sup>	
7 調査期間	発掘調査 平成17年6月6日～平成17年6月9日	
8 調査費用	468,300円	
9 調査主体者	千曲市教育委員会	
調査担当者	寺島孝典	
10 種別・時期	集落跡 弥生時代～中世	
11 検出遺構	なし	
12 出土遺物	なし	

### 調査経過と所見

都市計画道路一重山線の道路改良工事に伴い、長野電子工業(株)敷地内が道路拡幅計画線内に入るため、この部分に埋設されているオイルタンクを移設することとなった。

工事予定地は、以前工場が建設されていた場所であり、その際の基礎が深く打ち込まれている可能性があるとして、遺跡は既に破壊されていることも予想されたが、掘削を行いながら地下の状況を確認し、破壊が免れている箇所の発掘調査を実施することとした。

平成16年3月、文化財保護法第57条に基づく届出があり、平成17年5月23日、事業主体者である長野電子工業(株)と埋蔵文化財保護協議を行った。

発掘調査は平成17年6月6日から開始したが、掘削を開始して間もなく地表下約40cmから工場のコンクリート基礎が現れた。厚さ30cmの基礎は調査区全体に及び、また、基礎の下は地盤改良によるとみられる碎石が約50cm入れられており、遺構を検出することはできず遺物の出土もなかった。

6月9日、オイルタンク埋設の予定深度である4.5mまで掘削を行い土層観察を行ったが、埋蔵文化財は確認できなかったことから同日調査を終了した。

## (2) 杉山古墳群

### I 調査の概要

- |          |  |
|----------|--|
| 1 調査遺跡名  | 杉山古墳群 (千曲市遺跡台帳 No.5 調査記号 SGK II)                   |
| 2 所在地    | 千曲市大字倉科字杉山   |
| 3 土地所有者  | 個人   |
| 4 調査原因   | 学術調査 (範囲確認調査)                                      |
| 5 事業者    | 千曲市教育委員会生涯学習課 (森將軍塚古墳館)                            |
| 6 調査の内容  | 発掘調査 150m <sup>2</sup><br>地形測量 1,000m <sup>2</sup> |
| 7 調査期間   | 発掘調査 平成17年8月29日～平成17年9月17日                         |
| 8 調査費用   | 3,001,648円 (国・県補助事業)                               |
| 9 調査主体者  | 千曲市教育委員会   |
| 調査指導     | 岩崎卓也 元筑波大学教授<br>木下正史 東京学芸大学教授                      |
| 調査担当者    | 佐藤信之   |
| 調査参加者    | 東京学芸大学大学院生・学生                                      |
| 10 種別・時期 | 古墳 古墳時代  |
| 11 検出遺構  | 横穴式石室・竪穴式石室  |
| 12 出土遺物  | 古墳時代 土器片・滑石製白玉                                     |
| 13 調査報告書 | 平成18年度刊行予定   |

### 調査経過と所見

調査した古墳は、いずれも周辺に点在する石英閃緑岩で構築された積石塚古墳である。

A古墳は昨年度から調査を実施している横穴石室を持つ古墳で、今年度は古墳の規模を確認するために設定したトレンチの調査から、裾部分に石垣状の石積があることが確認された。石積は直線的で一部に角と思われる屈曲部があり、八角形の古墳になる可能性があるため、平成18年度に改めてトレンチを設定し確認する。

D古墳は石英閃緑岩を小口積にした竪穴石室で、規模は長さ4.5m、幅70cm～80cmで深さは最大1.1mを測る。良好な状態で残っていたが、盗掘を受けており出土遺物はほとんどなかった。墳丘の規模を確認するため、東西南北に入れた4本のトレンチからは裾部分の石積が確認されたが、いずれも直線的に伸びており、一辺12～13mの方墳となる可能性が高いため、平成18年度にコーナー部分にトレンチを入れ確認する。

A古墳からは僅かに土師器片が出土しているが、実測可能なものはない。D古墳は墳丘内より土師器片が僅かに出土しており、高坏・甕の破片から構築は5世紀中頃が考えられる。またD古墳の石室内からは滑石製の白玉が20個出土している。

調査は平成18年度も継続して行い、調査報告書を刊行する予定である。



A号墳全景



D号墳調査前



D号墳竖穴石室

### (3) 屋代遺跡群 大境遺跡

#### I 調査の概要

- |          |   |
|----------|---|
| 1 調査遺跡名  | 屋代遺跡群大境遺跡 <small>やしらいせきぐんおおざかいせき</small> （千曲市遺跡台帳 No. 31-13 調査記号 OZ8） |
| 2 所在地    | 千曲市大字雨宮519番地1 ほか  |
| 3 土地所有者  | オリオン機械株式会社 代表取締役社長 太田哲郎   |
| 4 調査原因   | しなのエアウォーター株式会社事務所建設工事   |
| 5 事業者    | オリオン機械株式会社 代表取締役社長 太田哲郎   |
| 6 調査の内容  | 発掘調査 150m <sup>2</sup>  |
| 7 調査期間   | 発掘調査 平成17年10月3日～平成17年10月25日<br>整理調査 平成17年11月7日～平成18年3月31日             |
| 8 調査費用   | 1,600,000円（全額事業者負担）   |
| 9 調査主体者  | 千曲市教育委員会  |
| 調査担当者    | 小野紀男  |
| 調査参加者    | 小林直文・高野貞子・竹之内常秋・中村文恵・間嶋今朝雄・柳沢君雄<br>米沢須美子                              |
| 10 種別・時期 | 集落跡 弥生時代～中世   |
| 11 検出遺構  | 竪穴住居跡22棟・掘立柱建物跡3棟・土坑8基・溝跡3基・ピット3基                                     |
| 12 出土遺物  | 弥生時代～中世 土器片 コンテナ7箱  |
| 13 調査報告書 | 「屋代遺跡群 大境遺跡8」平成18年3月刊行  |

#### 調査経過と所見

平成17年7月、オリオン機械(株)から事務所建設の計画がある旨連絡があった。

当該地は屋代遺跡群大境遺跡として周知される埋蔵文化財包蔵地内にあり、周辺の調査成果から地表下1m前後で埋蔵文化財が確認されている地域である。

平成17年9月6日、文化財保護法第93条に基づく届出があり、当該工事に係る埋蔵文化財保護協議を実施したところ、工事による掘削は1mを超えるもので、設計変更もできないため発掘調査による記録保存が必要となった。

発掘調査は平成17年10月3日より開始し、10月25日、現場における作業を終了。平成17年11月7日から整理調査を開始し、平成18年3月31日、当該事業に係るすべての作業を完了した。

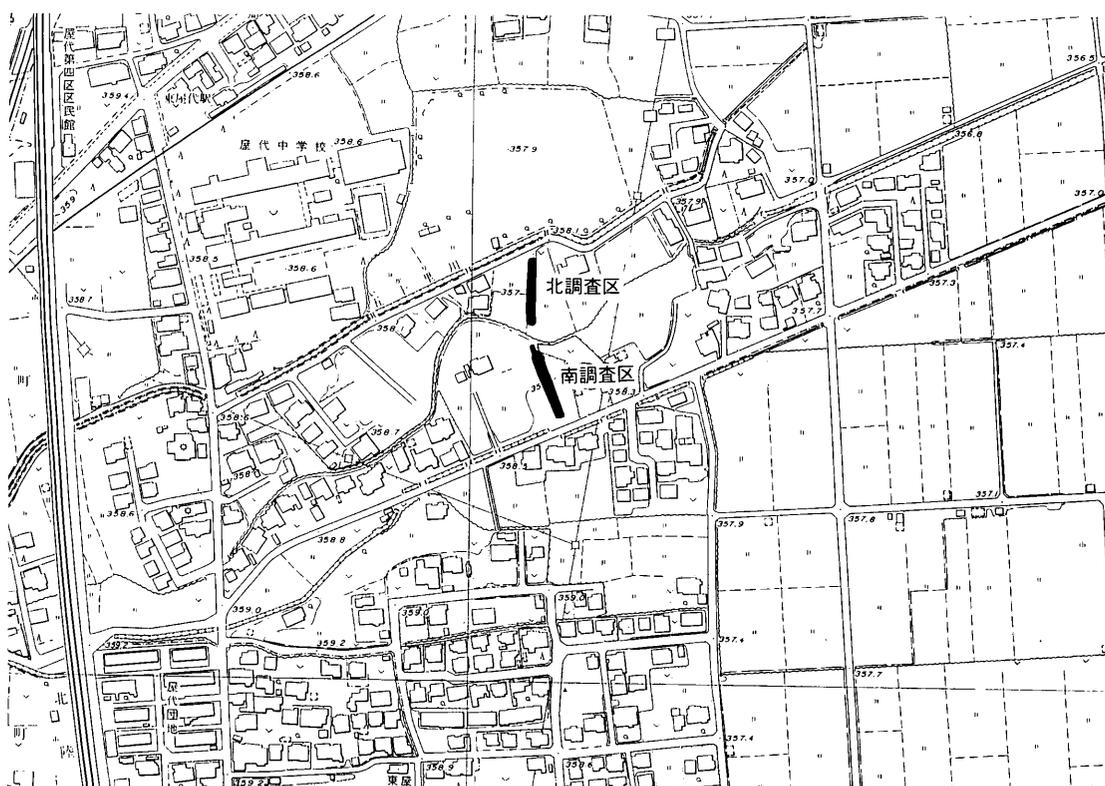
屋代遺跡群大境遺跡周辺では、長野県埋蔵文化財センターが実施した上信越自動車道建設工事や国道403号線土口バイパス建設工事に伴うものなど、過去9回の発掘調査が行われており、縄文時代から中世に至る複合遺跡であることが明らかとなっている。これら過去の調査では、国府木簡の出土や大型掘立柱建物跡の検出など、官衙的要素をもつ遺構・遺物が数多く出土しており、古代史究明にとって大変重要な遺跡であることは言うまでもない。

調査面積約150m<sup>2</sup>の範囲に竪穴住居跡22棟など多くの遺構が検出されているように、屋代遺跡群の遺構密集度の高さを物語っている。

## (4) 更埴条里水田址 五十里地点

### I 調査の概要

1 調査遺跡名	更埴条里水田址五十里地点 (千曲市遺跡台帳 No. 29)	調査記号 IKR
2 所在地	千曲市大字屋代字五十里659番地 3 (ほか)	
3 土地所有者	千曲市長 宮坂博敏	
4 調査原因	市道日詰南線道路改良工事	
5 事業者	千曲市長 宮坂博敏 (千曲市建設部建設課)	
6 調査の内容	発掘調査 700m <sup>2</sup>	
7 調査期間	発掘調査 平成17年10月18日～平成17年11月11日 整理調査 平成17年12月1日～平成18年3月31日	
8 調査費用	1,916,747円	
9 調査主体者	千曲市教育委員会	
調査担当者	寺島孝典	
調査参加者	大久保修身・小宮山重信・高野貞子・中村文恵・宮島高一・米沢須美子	
10 種別・時期	集落跡 平安時代 水田跡 中世	
11 検出遺構	平安時代 竪穴住居跡6棟・土坑2基・溝跡2基・ピット18基 中世以降 水田跡1面	
12 出土遺物	弥生時代・平安時代～中世 土器片 コンテナ3箱	



第2図 調査地位置図 (1:5,000)

## 調査経過

平成17年8月に千曲市建設部建設課から市道日詰南線改良工事を実施する旨、連絡があった。

当該工事は道路改良となつてはいるものの、新規の道路建設に近い状態の工事であるため、全線が埋蔵文化財保護対象となり、平成17年8月25日、文化財保護法第94条に基づく通知が提出された。

当該地は更埴条里水田址の範囲内にあたるが、工事予定地を分断する堰を境に約70cmの比高差が生じていることから、平成17年9月8日に埋蔵文化財包蔵状況確認のため試掘調査を行った結果、低地となる北側の調査区では中世と思われる水田跡、高地となる南側の調査区には平安時代の集落跡がそれぞれ存在することが判明し、平成17年10月18日から発掘調査を開始した。

調査区中央の堰を境に「北調査区」「南調査区」に区別し、調査は平安時代の住居跡が検出された南調査区を中心に行い、平成17年11月11日に現場における作業を終了した。

## 調査日誌

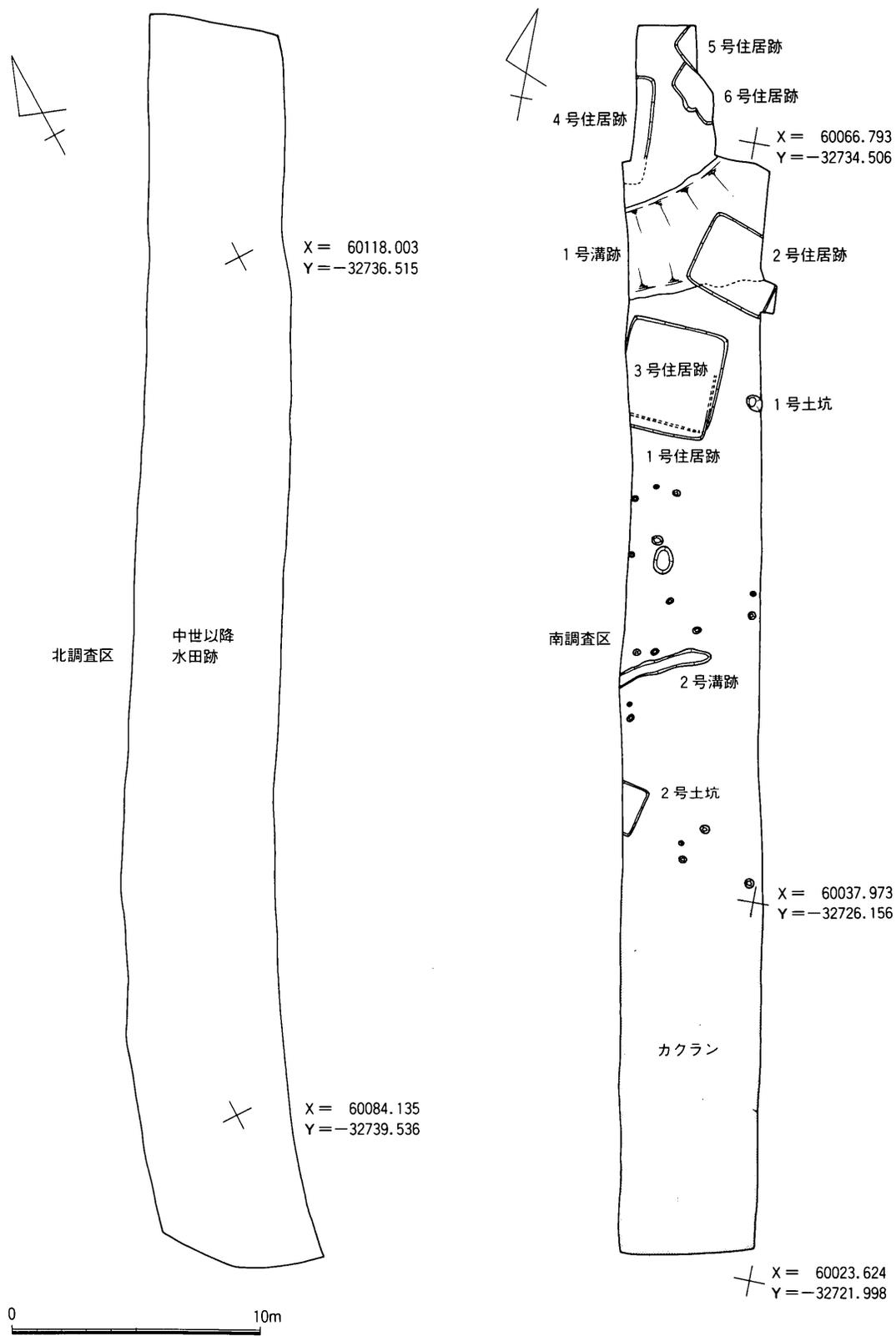
- 10月18日（火） 北調査区表土掘削。
- 10月19日（水） 遺構検出作業。中世以降水田跡検出。
- 10月20日（木） 南調査区表土掘削開始。遺構検出作業。
- 10月24日（月） 1号住居跡掘り下げ。
- 10月25日（火） 2号住居跡掘り下げ。1号住居跡写真撮影。
- 10月28日（金） 測量杭設定。
- 10月31日（月） 北調査区。水田面調査。3号住居跡掘り下げ。2号住居跡・1号土坑遺物取上げ
- 11月1日（火） 北調査区全体写真撮影。
- 11月2日（水） 3号住居跡カマド掘り下げ。カマド写真撮影。
- 11月4日（金） 南調査区全体写真撮影。
- 11月7日（月） 南調査区拡張掘削。
- 11月8日（火） 4～6号住居跡掘り下げ。
- 11月9日（水） 北調査区埋め戻し。1号溝写真撮影。
- 11月10日（木） 4～6号住居写真撮影。平面図作成。発掘機材撤収。
- 11月11日（金） 南調査区埋め戻し。本日をもって現場における調査を終了する。

## Ⅱ 遺跡の環境

更埴条里水田址の所在する千曲市大字屋代地籍は、千曲川右岸に展開する埋没水田跡として古くから周知されている地域で、昭和30年代後半に実施された条里遺構研究の学術調査により、条里制地割の行われた平安時代初期の埋没水田跡が全域に広がっていることが確認されている。

その後、多くの発掘調査により遺跡の全体像が明らかとなってきているが、水田跡とは別に、わずかな微高地を利用してつくられた平安時代の集落遺跡も更埴条里水田址範囲内から検出され、集落域と生産域が混在していたことをうかがわせている。

今回調査した更埴条里水田址五十里地点は、北緯36度32分27秒、東経138度08分04秒、標高357m付近に位置し、千曲川の氾濫により形成された自然堤防を利用した広大な集落遺跡「屋代遺跡群」に隣接する場所となる。



第3図 更埴条里水田址五十里地点全体図 (1:250)

### Ⅲ 遺構と遺物

#### 1 竪穴住居跡

##### 1号住居跡

バックホーによる表土掘削の際、上部のほとんどを削平してしまったため規模等は不明であるが、南壁の一部と床面が検出されている。また床面2箇所には鍛冶跡と思われる、被熱により硬化した火床が確認され、周囲から鉄屑や溶解の際の副産物と思われるガラス質の塊が多量に出土している。

住居は方形を呈すると考えられ、南壁直下には土坑が1基ある。床面は非常に堅緻である。

土師器坏（第8図1）のほか、図化できなかったが土師器甕や、ふいごの羽口が出土している。

##### 2号住居跡

1号溝跡と重複関係にあり、溝の埋没後に構築されている。床面は全体的に堅緻であるが、溝の覆土が軟弱な砂質土であるため、重複している部分は沈下が起きており床面の凹凸が著しい。

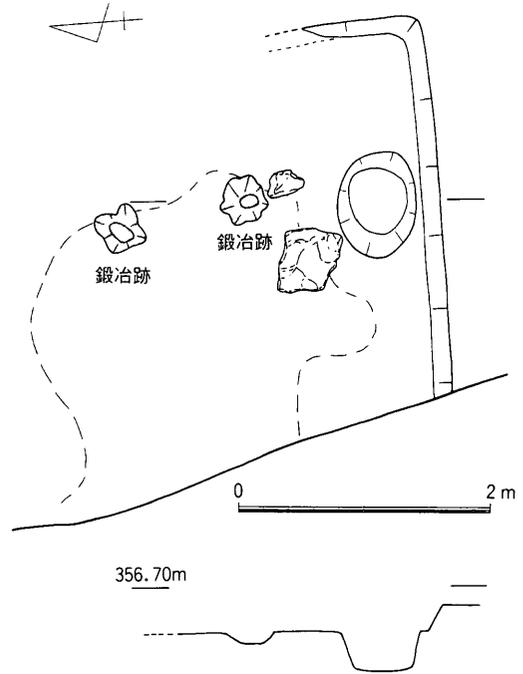
3.5m×3mの方形を呈する住居跡で、調査区東壁に石組みカマドの一部が検出されたため、調査区を拡張してカマドの検出を試みた。カマドは南東隅付近に構築され、カマドに使用された石は住居築絶時に破壊されたようで原形をとどめていなかったが、内部や周辺から多くの土器が出土している。

出土土器（第8図2～12）には土師器の坏・鉢・甕がある。3～9は内面が黒色処理され、8は底部に高台を持つ。6の外面には「 $\times$ 」の線刻が見られる。9は口縁部に1ヶ所片口を設け、外面下半はヘラケズリにより調整される。12の内面下半はタタキによる凹凸が著しい。

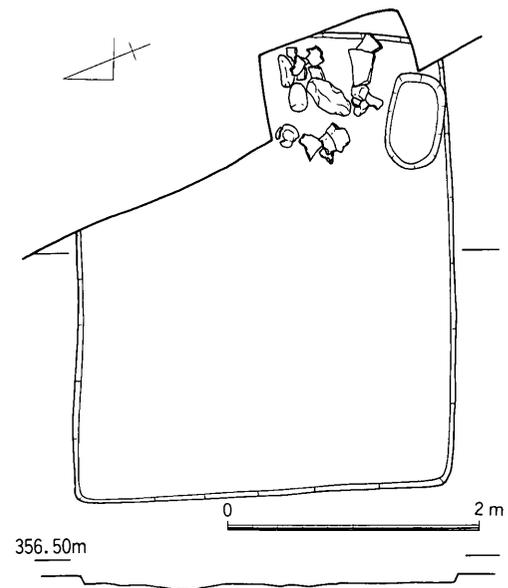
##### 3号住居跡

1号住居跡と重複関係にあり、1号住居より古い住居となる。床面は中央付近において非常に堅緻である。カマドは南東壁中央付近に検出され、袖の一部と火床が検出されたに過ぎないが煙道の出口（1号土坑）が確認されている。

出土土器（第8図13～16・第9図17～19）には土師器の坏・甕、須恵器の坏・甕がある。16は大型の須恵器甕である。破片の大半が1号土坑内より出土したものであるが、3号住居跡出土破片と接合関係にあり、また1号土坑が煙道出口ということ considering 当該遺構出土遺物として扱った。



第4図 1号住居跡（1：60）



第5図 2号住居跡（1：60）

#### 4号住居跡

1号溝跡の北側に検出された住居で、他遺構との重複は見られないものの、1号溝跡の調査のために掘削したトレンチにより南側の一部が破壊されている。住居跡のほとんどは調査区域外にあるため調査できなかったが、方形住居を想定する。

土器が僅かながら出土しているものの図化できるものはなかった。

#### 5号住居跡

6号住居跡を破壊して構築するが北西隅の一部が検出できているに過ぎない。床面は全体に軟弱で、床面を掘り込む2基の土坑が確認されているが、用途は不明である。

出土土器（第9図20～23）には土師器片がある。23は内面が黒色処理され、口縁部に片口を持つ。

#### 6号住居跡

南西壁に石組みカマドが検出されており、床一面に炭化物が被覆していた。住居形態は方形を呈すると思われるが、5号住居跡と重複し一部が検出できただけであり判然としない。

カマド周辺から土器が僅かに出土しているが、図化できるものはない。

## 2 溝跡

### 1号溝跡

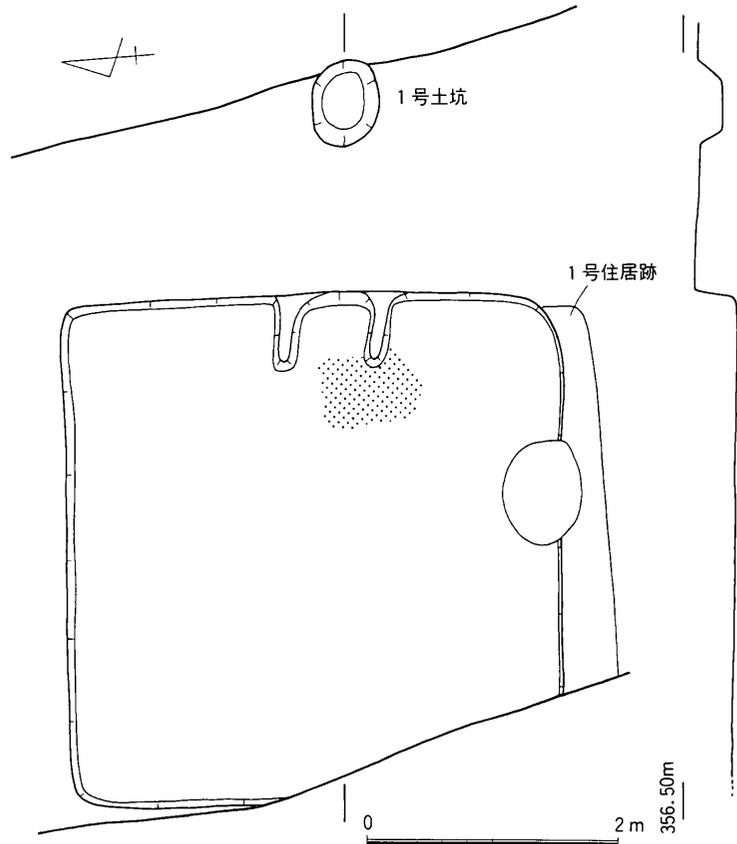
南調査区の北端付近で検出された幅4m前後を測る大きな溝である。

覆土は砂質土で何層にも分かれている。中央部分に幅60cm程の溝が並走しており、断面を見る限りでは別に掘り込まれた形跡がないことから同時に存在していたものと思われる。底面は鉄分が沈殿して硬化した部分が全体にわたって観察されているため、水路として機能していた可能性が高い。

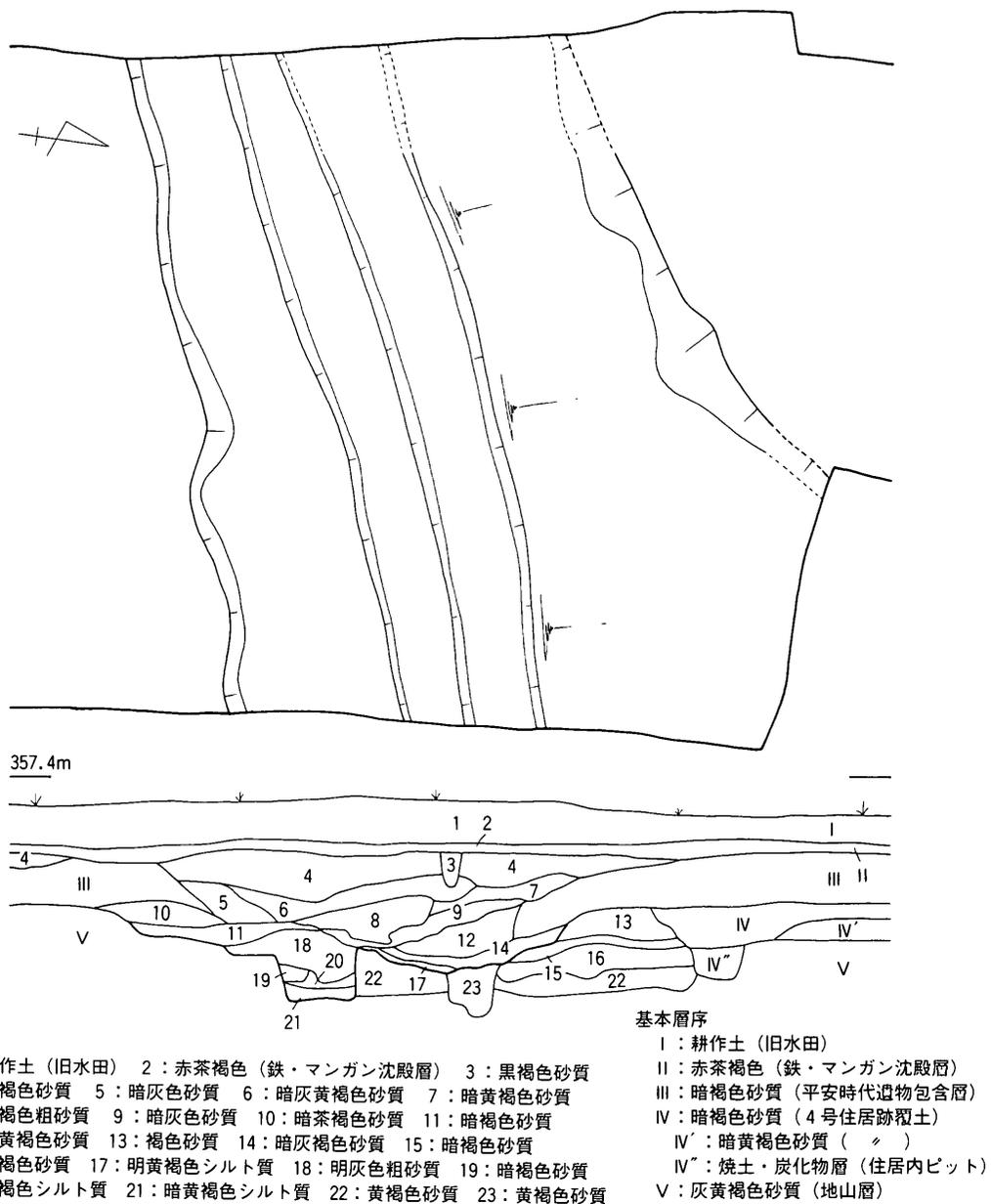
第9図24・25は、第7図第18層中から出土した弥生時代後期土器片である。表面に櫛描波状文を施文した甕で、24は口縁部破片、25は頸部に簾状文が施文される。このほか表面を赤彩した壺の破片や弥生時代中期の土器片も出土している。また、すべて小破片であるため図化することはできなかったが平安時代の遺物も散見できる。

### 2号溝跡

南調査区の中央付近で検出された幅約60cm、深さ10cm前後の遺構である。平安時代の土器片が出土しているが図化できるものはなかった。



第6図 3号住居跡（1：60）



第7図 1号溝跡及び西壁土層断面図（1：60）

### 3 その他の遺構

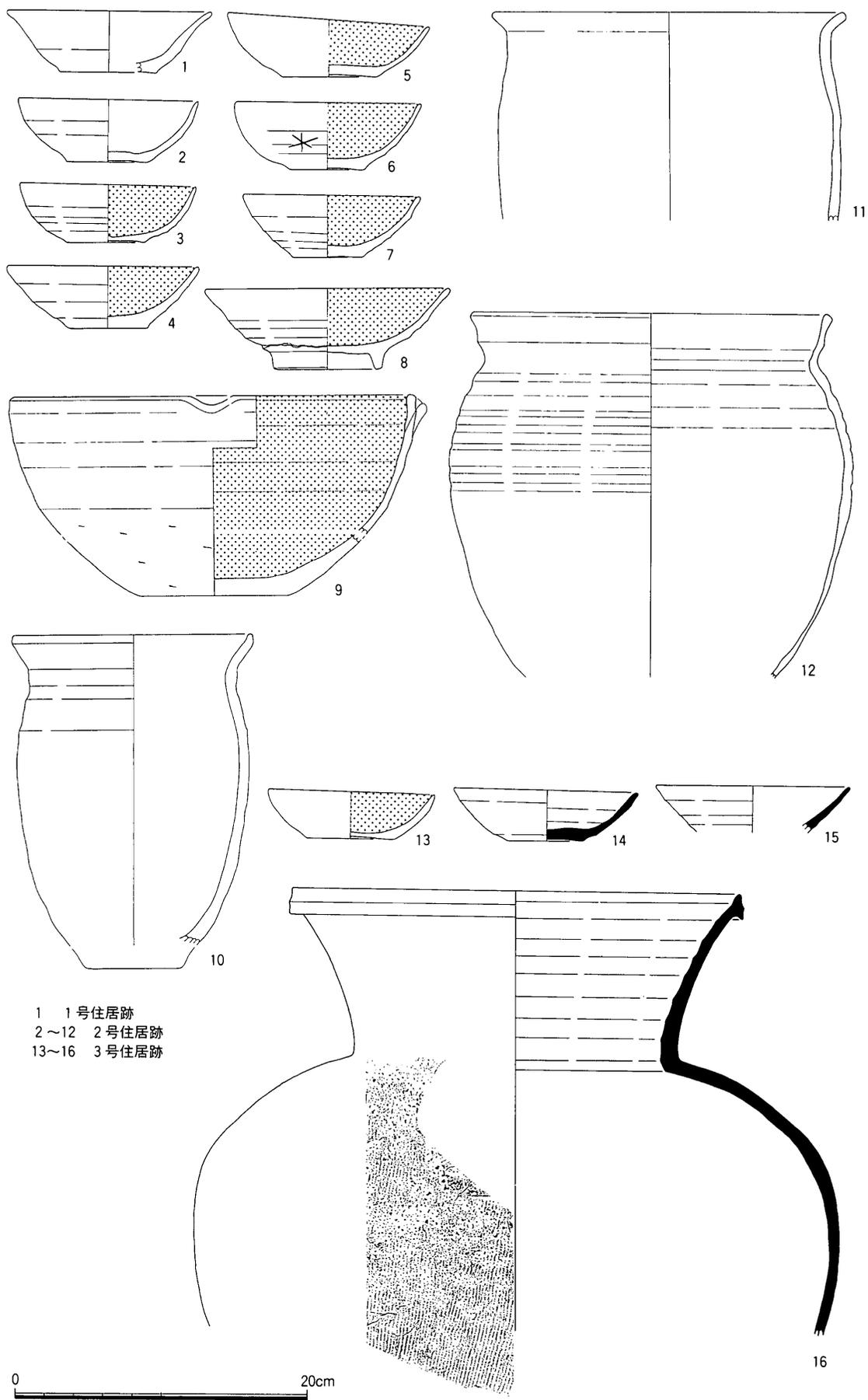
#### 土坑

南調査区を中心に多くの土坑が検出されている。

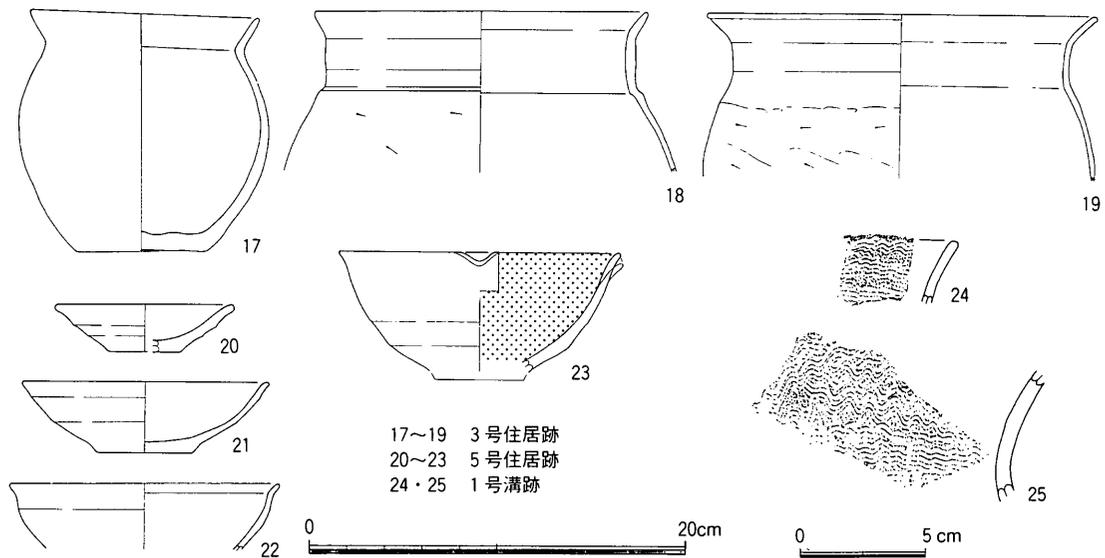
3号住居跡の煙道出口である1号土坑以外は遺物の出土もなく時代を特定できるものはないが、恐らく平安時代の遺構であると思われる。また小土坑（ピット）についても掘立柱建物跡のような組み合わせのできるものもない。

#### 水田跡

北調査区全体にわたって検出されているが、畦畔等水田として明確に判断できる遺構は検出されていない。水田面と思われる粘土内から陶磁器や内耳鍋破片が出土していることから中世以降の水田跡と考えられる。



第8図 更埴条里水田址五十里地点出土遺物実測図① (1 : 4)



第9図 更埴条里水田址五十里地点出土遺物実測図② (17~23 1 : 4 24・25 1 : 3)

#### IV まとめ

今回の調査地点は、屋代遺跡群と更埴条里水田址との境界にあたり、調査地点北を流れる五十里川によって区別されている。これら遺跡範囲の境界については、そのほとんどが地形などを考慮にいたり、道路や河川、字名等を参考にして境界としたりした便宜上の区別であり、この境界によって遺跡の性格が変わるというものではない。もちろん、数多くの発掘調査により各時代における遺跡の性格を考慮した遺跡の範囲を特定することが可能な場所もあるが、未だ明確に遺跡の範囲を特定するには至っていないのが現状である。

更埴条里水田址は、平安時代の埋没水田跡が検出される地域として古くから著名な遺跡であるが、これまでの発掘調査成果により中世から縄文時代の集落跡が存在することも明らかとなっているほか、古墳時代や弥生時代の水田跡も検出されており、長期間、多岐にわたり土地利用されてきたことをうかがわせている。

今回調査した更埴条里水田址五十里地点は、南北に細長いトレンチ状の調査であった。

調査範囲の中央付近を堰が1本横断しており、これを境に現地表に70cm程の高低差が認められている。当初この高低差については近世または近代における削平によるものと判断していたが、調査の結果中世以降の水田跡が存在することが明らかとなり、少なくとも中世期には現在の地形に近い地形となっていた可能性が高いものといえる。

水田跡の直下は、南調査区において平安時代遺構確認面（第7図第V層）と同様の砂質土が堆積している。平安時代遺物包含層（第7図IV層）の存在もないため、北調査区での平安時代の遺跡については、地形の落ち込み等により存在していなかったか、あるいは中世期以前に何らかの理由で既に削平されてしまっていたことが考えられる。

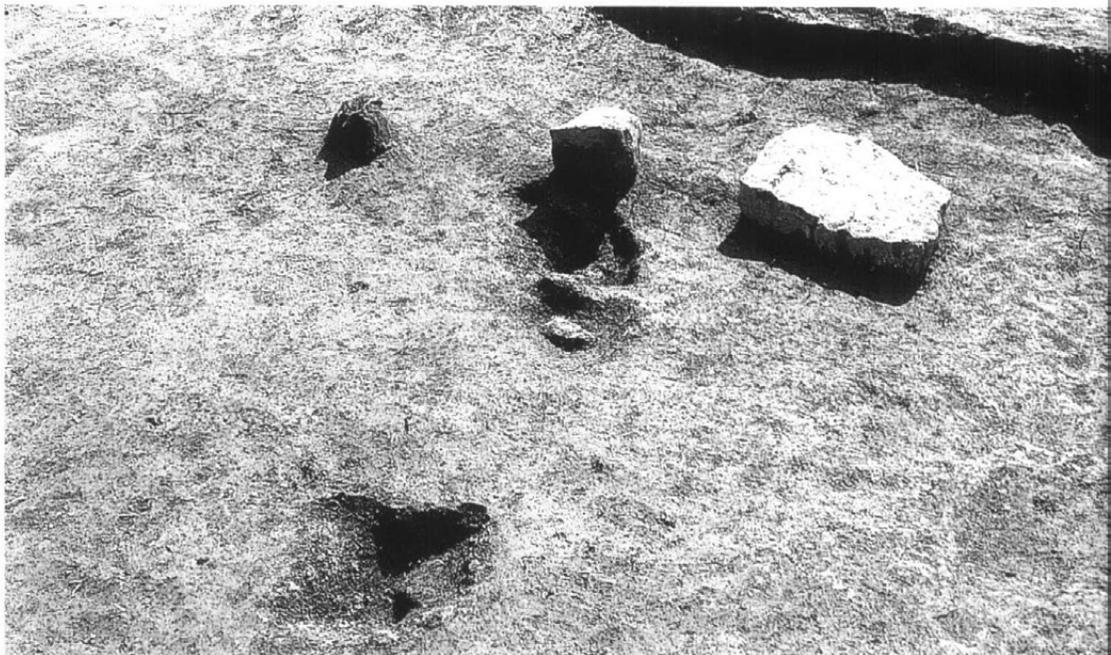
南調査区で検出された住居跡等の遺構は、出土遺物から10世紀代の集落跡と判断される。

仁和4年（888）に起こったとされる千曲川の大洪水により、当該地は多量の土砂に覆われてしまっているが、今回検出された集落は、大洪水の後に築かれているものである。

最後に、調査遂行にあたりご協力賜った関係者の皆様に感謝申し上げ、まとめとする。



南調査区作業風景



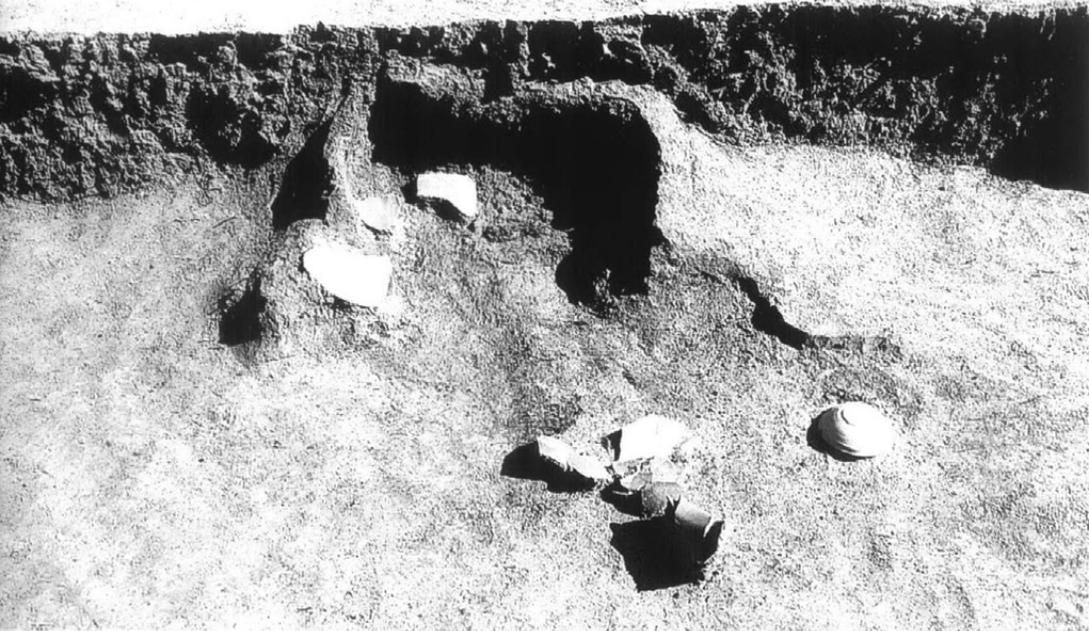
1号住居跡鍛冶跡検出状況



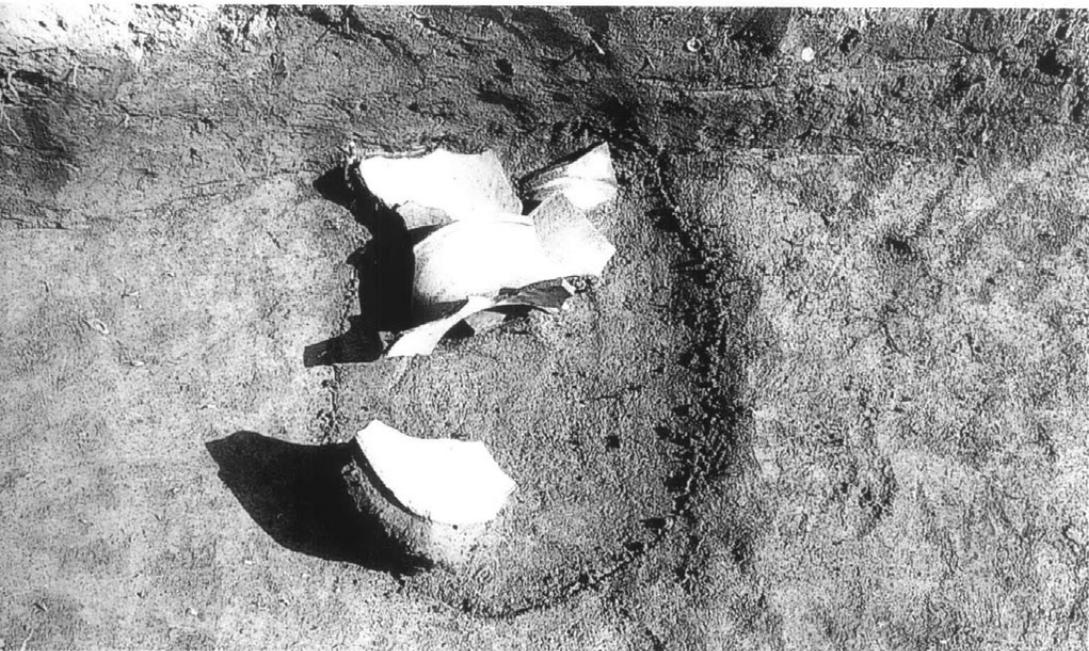
1号住居跡カマド検出状況



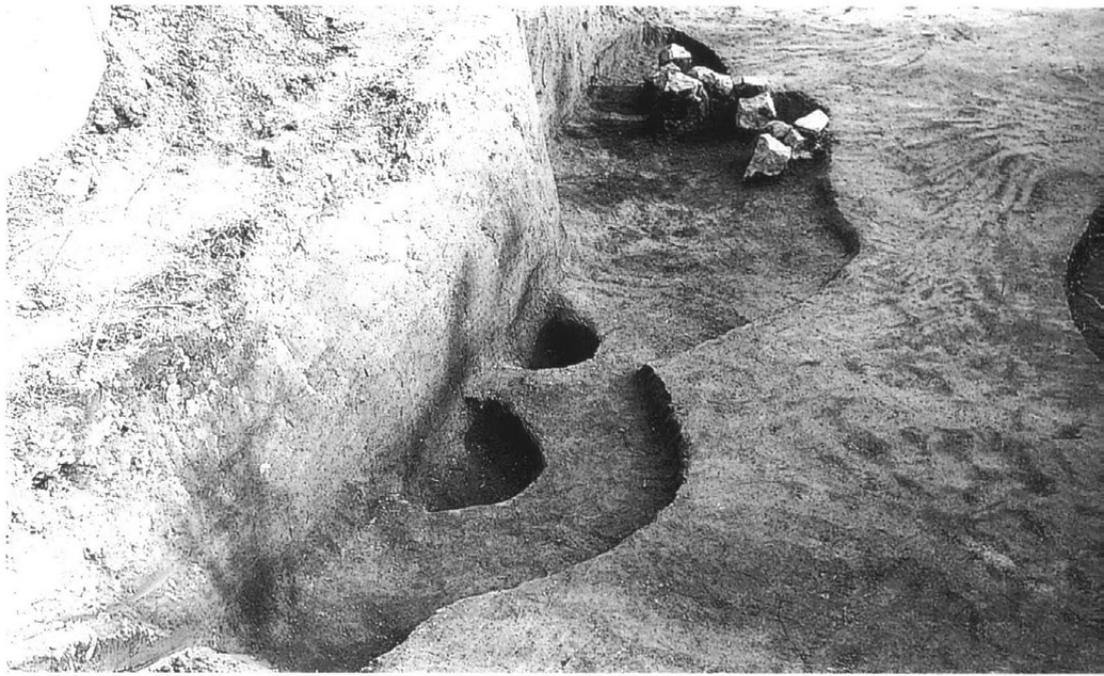
3号住居跡検出状況



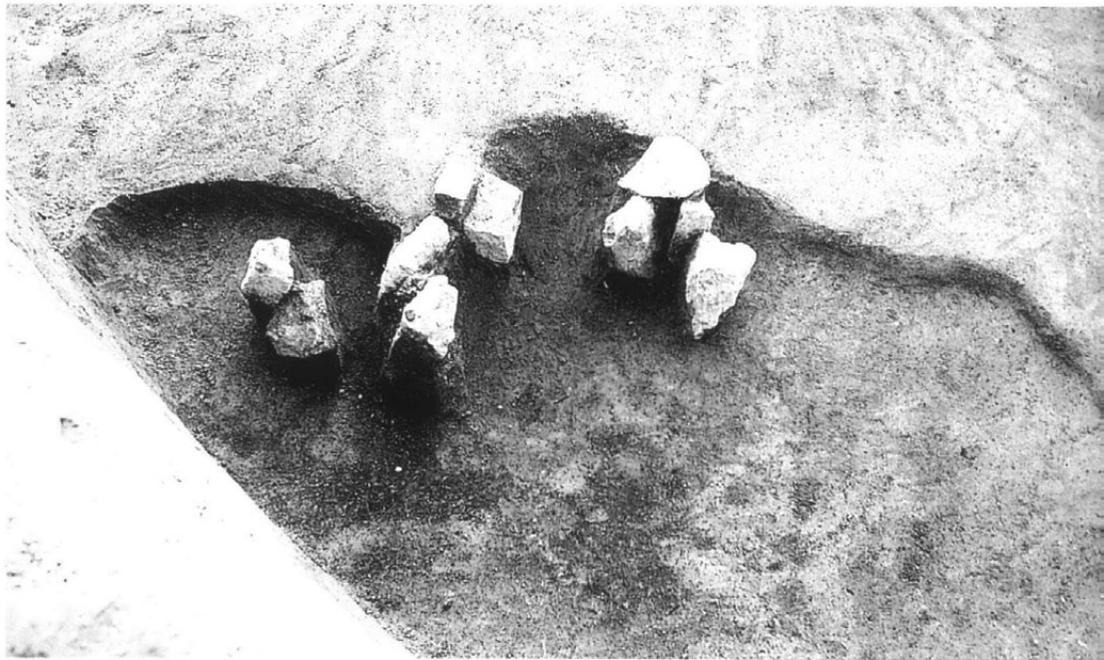
3号住居跡カマド検出状況



1号土坑遺物出土状況



5号・6号住居跡検出状況



6号住居跡カマド検出状況



1号溝跡検出状況

## (5) 粟佐遺跡群 琵琶島遺跡

### I 調査の概要

1 調査遺跡名	粟佐遺跡群琵琶島遺跡 (千曲市遺跡台帳 No. 28-16 調査記号 BWJ3)
2 所在地	千曲市大字小島3162番地3 ほか
3 土地所有者	千曲建設事務所長
4 調査原因	平成17年度 地方道路交付金(街路)事業 旧国道線 千曲市 屋代(3)
5 事業者	千曲建設事務所長(千曲市大字屋代1881番地)
6 調査の内容	発掘調査 95m <sup>2</sup>
7 調査期間	発掘調査 平成17年11月14日～平成17年11月25日 整理調査 平成18年1月4日～平成18年2月28日
8 調査費用	900,000円
9 調査主体者	千曲市教育委員会
調査担当者	小野紀男
調査参加者	小林直文・高野貞子・中村文恵・間嶋今朝雄・柳沢君雄・米沢須美子
10 種別・時期	集落跡・水田跡 平安時代～中世
11 検出遺構	溝跡14基・ピット4基・水田跡
12 出土遺物	土器片 中世～中世 コンテナ1箱
13 調査報告書	事業最終年度刊行予定

### 調査経過と所見

当該事業は平成16年度から継続されている事業で、用地買収が完了し、家屋の移転または取り壊し等が済んだある程度の面積が確保できた段階で発掘調査を実施することとなっている。

今年度の調査区は、平成16年度調査区を北側に延長した部分であり、平成17年10月31日当該事業に係る業務委託契約を締結し、11月14日から調査を開始した。

調査対象面積は約380m<sup>2</sup>であったが、家屋等への出入りの確保をするため全体を掘削し調査することができなかったことから、最終的な調査面積は95m<sup>2</sup>で、残りの部分については試掘調査による遺構確認と土層観察を行っている。

平成17年11月25日、現場における作業を終了し、平成18年1月4日から整理調査を開始。2月28日に今年度調査分の作業をすべて完了した。

平成16年度に行った調査では、調査区の南端で平安時代の住居跡が1棟検出されており、平安時代の集落域が展開していることが明らかとなったが、北に行くにしたがって地形が落ち込んできており、平安時代の遺構が検出されなくなる傾向があった。

今回の調査地点では地表下約1mで中世遺構の検出となる。平成16年度調査区の平安時代住居跡が地表下約50cmから検出されていることから考えれば、先述したように地形の落ち込みが顕著に見られたことで、今後の調査の参考になるものである。

## (6) 町裏遺跡

### I 調査の概要

- |          |  |
|----------|--|
| 1 調査遺跡名  | 町裏遺跡 <small>まちうらいせき</small> (千曲市遺跡台帳 No.123 調査記号 MCU3)   |
| 2 所在地    | 千曲市大字桑原1156番地1 ほか  |
| 3 土地所有者  | 千曲市長 宮坂博敏  |
| 4 調査原因   | ふるさと農道桑原中道線道路改良工事  |
| 5 事業者    | 千曲市長 宮坂博敏 (千曲市建設部建設課)                                    |
| 6 調査の内容  | 発掘調査 270m <sup>2</sup>                                   |
| 7 調査期間   | 発掘調査 平成17年12月5日～平成17年12月13日<br>整理調査 平成18年1月4日～平成18年3月31日 |
| 8 調査費用   | 506,636円   |
| 9 調査主体者  | 千曲市教育委員会   |
| 調査担当者    | 寺島孝典   |
| 調査参加者    | 小笠原利栄・小林直文・高野貞子・中村文恵・松島光延・米沢須美子                          |
| 10 種別・時期 | 集落跡 平安時代～中世  |
| 11 検出遺構  | 竪穴住居跡3棟・土坑1基・不明遺構1基                                      |
| 12 出土遺物  | 平安時代～中世 土器片等 コンテナ1箱                                      |
| 13 調査報告書 | 事業最終年度刊行予定   |

### 調査経過と所見

当該事業に係る町裏遺跡の発掘調査は平成15年度から継続しているもので、本年度が3ヵ年目の調査となる。これまでに約270m<sup>2</sup>の調査を実施しており、奈良時代から平安時代の住居跡5棟のほか、土坑・溝跡などが検出されている。

今回の調査は、平成16年度調査区から北東方向へ延長した箇所にあたり、現地地形が徐々に落ち込んでいく部分となる。事前に行った試掘調査で東に行くに従って遺物包含層が薄くなっていく状況が判明しているため、地形が低くなる北東側での遺構の検出は難しいと判断している。

今回の調査地点は、地形が落ち込み始める突端に位置するもので、遺跡の東端に位置するものと考えられる。

調査面積270m<sup>2</sup>のうち、現道下部分は現道建設の際に遺跡を破壊してしまっているため調査できなかったが、拡幅部分については辛うじて遺構の検出を見た。

検出された遺構は、平安時代の住居跡4棟と中世の不明遺構1基である。

## (7) 長楽寺

### I 調査の概要

- |          |                                      |
|----------|--------------------------------------|
| 1 調査遺跡名  | 長楽寺 <small>ちやうらくじ</small> (調査記号 TYZ) |
| 2 所在地    | 千曲市大字八幡字姨捨4983番地2                    |
| 3 土地所有者  | 宗教学法人長楽寺 代表役員 佐野昇純                   |
| 4 調査原因   | 名勝「姨捨 (田毎の月)」整備事業                    |
| 5 事業者    | 千曲市長 宮坂博敏 (千曲市教育委員会生涯学習課)            |
| 6 調査の内容  | 発掘調査 20m <sup>2</sup>                |
| 7 調査期間   | 発掘調査 平成18年3月8日～平成18年3月23日            |
| 8 調査費用   | 411,613円 (国・県補助事業)                   |
| 9 調査主体者  | 千曲市教育委員会                             |
| 調査担当者    | 小野紀男                                 |
| 調査指導     | 佐々木邦博 信州大学教授                         |
| 調査参加者    | 中村文恵・西野入金己・松島光延・米沢須美子                |
| 10 種別・時期 | 社寺跡 近世～現代                            |
| 11 検出遺構  | 石段15段                                |
| 12 出土遺物  | 近世～現代 陶磁器片・瓦片 コンテナ1箱                 |

### 調査経過と所見

明治時代に描かれた絵図等により観音堂と姨石との間に階段があったことが知られていたことから、名勝「姨捨 (田毎の月)」整備事業により長楽寺観音堂周辺の調査を行ったものである。

今回の調査はこの階段の遺存状況を確認するための学術調査で、調査終了後は土のうにより埋め戻しを行う保存目的の調査となる。

調査の結果、長楽寺参道から観音堂に向かう斜面では、現地直下から切石積の階段15段がほぼ原形をとどめた状態で検出された。

両脇に縁石があり階段の幅は約1.4mを測る。階段の踏み面と高さはそれぞれ20cm前後を測り、勾配は約40°の急傾斜となる。

検出された階段と観音堂の接続部分については、観音堂の石垣により破壊されており、接続の状況は確認できなかった。



石段検出状況

## (8) 更埴条里水田址 返町地点

### I 調査の概要

1 調査遺跡名	更埴条里水田址返町地点 <small>こうしよくじょうりすいでんしそりまちちてん</small> (千曲市遺跡台帳 No. 29 調査記号 SRM 2)
2 所在地	千曲市大字屋代字返町569番地 1
3 土地所有者	個人
4 調査原因	ボーダフォン千曲屋代局携帯電話用無線基地局建設工事
5 事業者	日本電設工業株式会社 執行役員情報通信本部長 圓鏝 勝
6 調査の内容	発掘調査 67m <sup>2</sup>
7 調査期間	発掘調査 平成18年3月13日～平成18年3月22日 整理調査 平成18年3月23日～平成18年3月31日
8 調査費用	600,000円 (全額事業者負担)
9 調査主体者	千曲市教育委員会
調査担当者	寺島孝典
調査参加者	北村哲男・高野貞子・中村文恵・西野入金己・柳沢君雄・米沢須美子
10 種別・時期	集落跡 弥生時代～平安時代
11 検出遺構	竪穴住居跡 1棟・溝跡 2基・ピット19基
12 出土遺物	平安時代 土器片 コンテナ 1箱

### 調査経過

平成17年8月30日、当該事業に係る照会があった。この時点では建設候補地が複数あり、ボーリング調査を行ってから最終的な建設地を選定するとしていた。

平成18年1月23日、建設予定地が決定したとの連絡を受け埋蔵文化財の保護協議を行い、鉄塔建設により掘削される8m四方、64m<sup>2</sup>について記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなった。

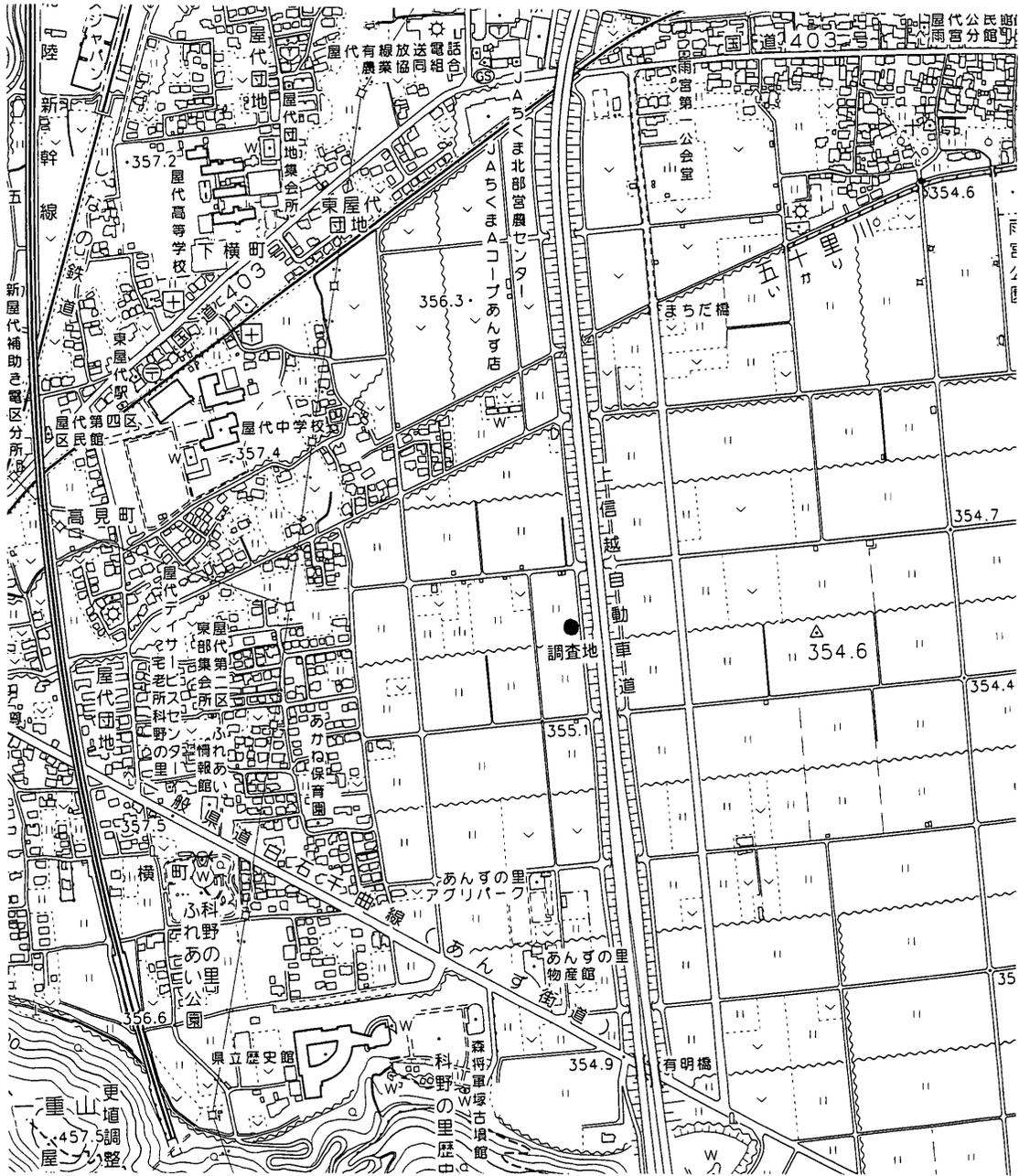
平成18年2月24日に文化財保護法に基づく第93条の届出が提出され、平成18年3月6日、施工責任者である日本電設工業(株)執行役員情報通信本部長 圓鏝勝と千曲市長 宮坂博敏との間で当該事業に係る発掘調査委託契約を締結し、平成18年3月13日、発掘調査を開始した。

発掘調査は、平成18年3月22日までの実質6日間実施し、同日現場における作業を終了した。

整理作業は、平成18年3月23日から開始し、平成18年3月31日に当該事業に係るすべての業務を完了した。

### 調査日誌

- 3月13日(月) 発掘機材搬入。バックホーによる表土掘削。遺構検出作業。
- 3月14日(火) 1号住居跡、1号溝跡、2号溝跡掘り下げ。
- 3月15日(水) 全体写真撮影。平面図作成。1次検出面調査終了。
- 3月16日(木) バックホーによる2次検出面掘削。遺構検出作業。
- 3月20日(月) ピット掘り下げ。全体写真撮影。1号住居跡カマド部分拡張。
- 3月22日(水) 1号住居跡カマド検出、写真撮影。2次検出面平面図作成。発掘機材撤収。  
本日を持って現場における作業を終了する。



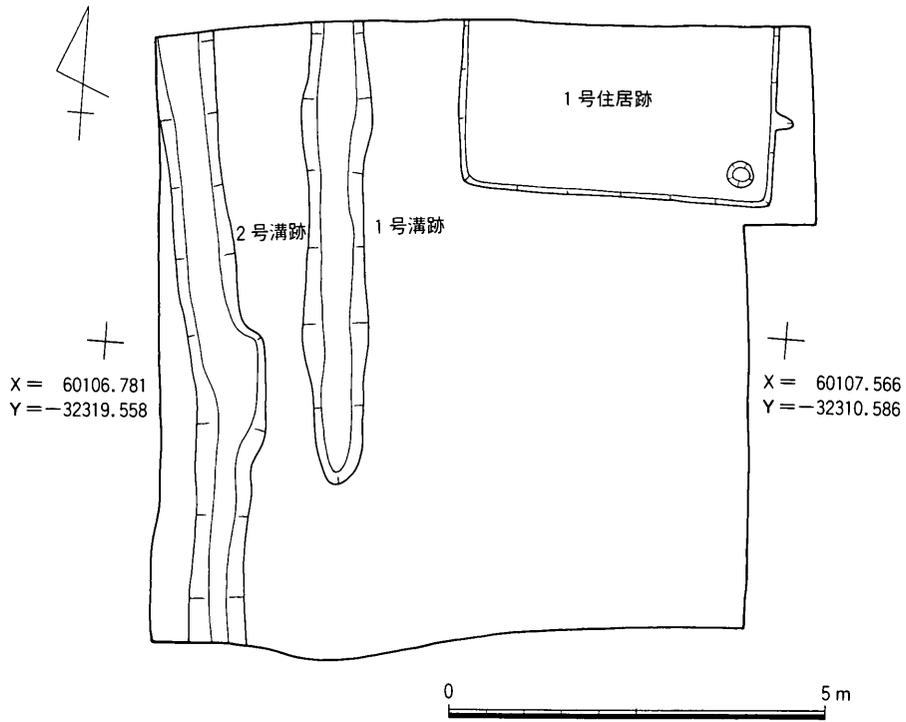
第10図 調査地位置図（1：10,000）

## Ⅱ 遺跡の環境

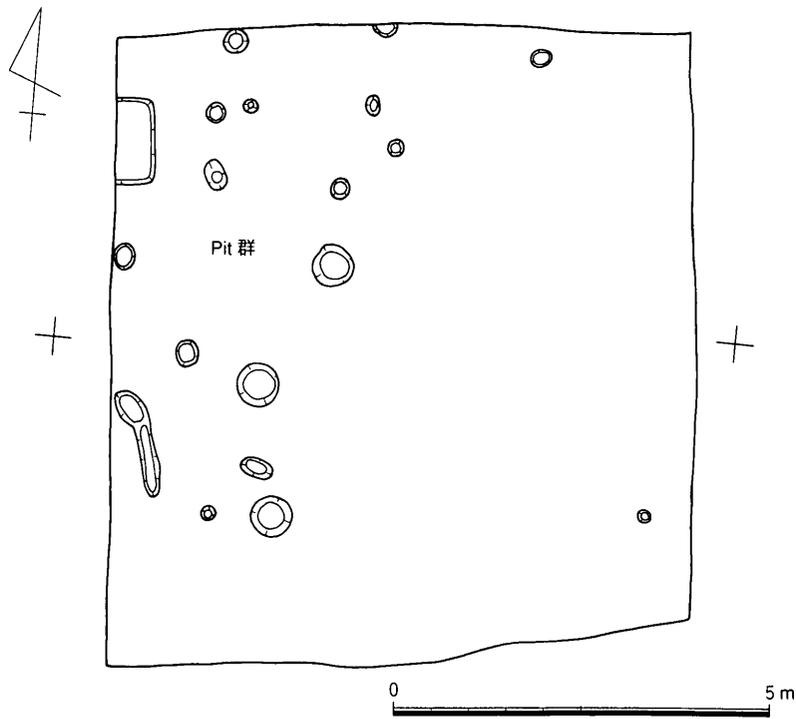
当該地周辺は、一部宅地化が進んできてはいるものの、通称“屋代田んぼ”と呼ばれているとおり、市内有数の広大な水田地帯となっている。

更埴条里水田址は、仁和4年（888）に起こったとされる千曲川の大洪水によりもたらされた洪水砂に被覆された平安時代水田跡が検出される遺跡として周知されており、これまでに多くの発掘調査が実施されている。

今回の調査地点は、上信越自動車道の西隣に位置している。上信越自動車道建設工事に伴う発掘調査では、平安時代水田跡はもちろんのこと、中世から縄文時代に至る居住域の調査も行われ、平安時代の住居跡や弥生時代の遺構が検出されていることでもわかるとおり、古くから、また長い時間に渡る人々の生活の営みの痕跡が認められているほか、平安時代においても当該地一帯が単なる水田等の生産地域だけでなく、僅かな微高地を利用して集落を形成していたことも判明している。



第11図 更埴条里水田址返町地点1次調査面全体図（1：100）



第12図 更埴条里水田址返町地点2次調査面全体図（1：100）

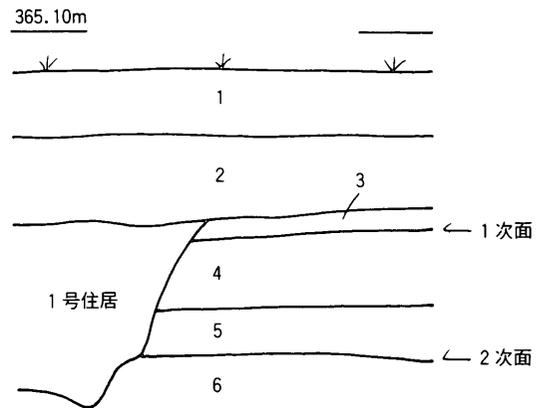
### Ⅲ 遺構と遺物

#### 1 基本層序

第13図に当該地の基本層序を示した。

第1層は耕作土で、直下の第2層が平安時代の遺物包含層となる。厚さは20cm前後を測り、黒褐色で粘質が強い。第3層は褐色の砂質土、第4層は灰色の粘土質となる。第4層上面に設定した1次調査面は、地表下80cmを測る。

第5層は黒色粘質土で、古墳時代から弥生時代にかけての遺物包含層を想定し、黄褐色粘質土の第6層上面を2次調査面として設定した。



第13図 基本層序 (1:20)

#### 2 竪穴住居跡

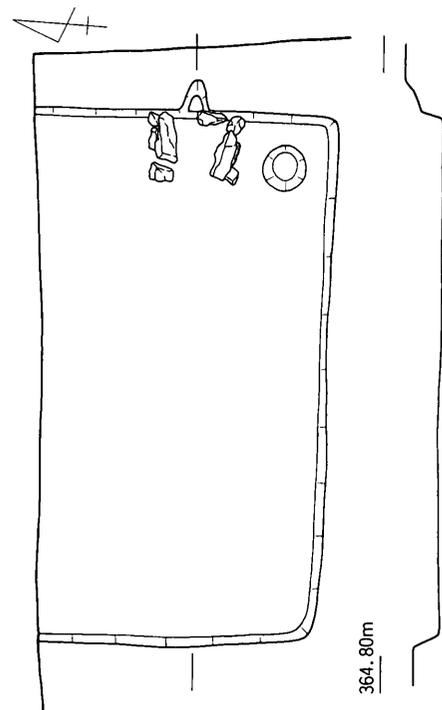
##### 1号住居跡

調査区の北東隅に検出され、3分の1ほどが調査区域外により調査できなかったが、出土した土器様相から平安時代の住居跡であり、一辺5m前後を測る方形住居であると考えられる。

東壁には中央より僅か南側へずれた位置に石組みによるカマドが構築されており、周辺及びカマド内部から多量の土器が出土している。カマドに使用された石は、住居廃絶時に破壊されたためか原形をとどめておらず、内部から出土した土器も捨て置かれた土器であると思われる。

床面は、調査前の試掘調査坑により破壊してしまっているため判然としないが、一部堅緻な部分が見受けられる。

出土土器(第14図)はすべて土師器で、坏(1~18)、鉢(19)、甕(20~24)がある。



第14図 1号住居跡 (1:60)

坏のうち8~10・14~17は内面を黒色処理され丁寧なヘラミガキが施されているが、黒色処理されない1~7・12・13・18も内面が軽くヘラミガキされる。

19は口縁部に片口を持つ鉢で、外面下半はヘラケズリされる。22・23は内面下半がタタキにより整形され底部は尖底となる。

#### 3 溝跡

1次調査面の調査区西側に2基並走する形で検出されている。東側を1号溝跡、西側を2号溝跡としたが、覆土は双方とも同様に粗い砂で、内部より多量の軽石が出土している。

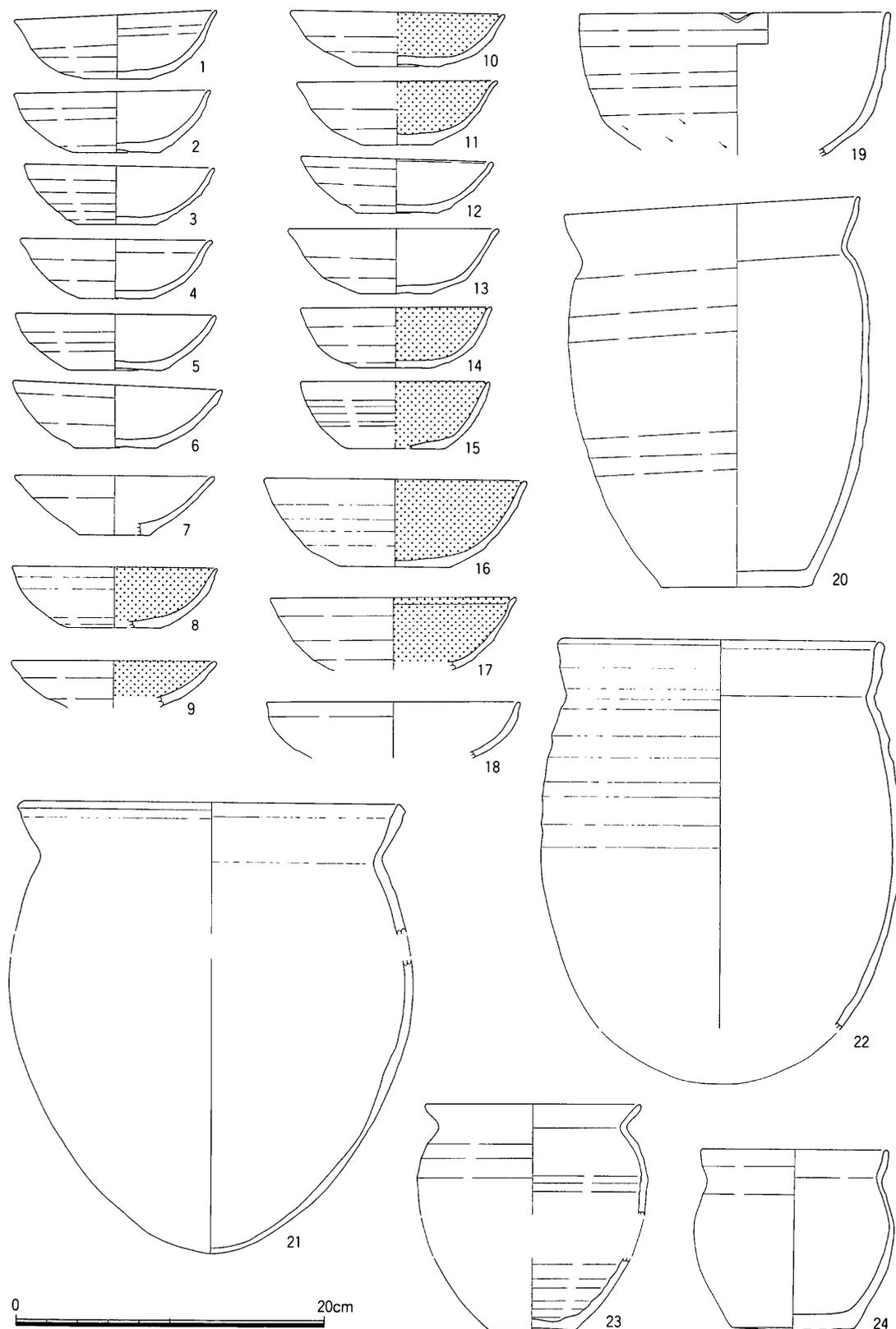
また、僅かながら平安時代の遺物が出土しているが図化できるものはなかった。

#### 4 ピット群

2次調査面において検出された遺構である。それぞれ独立しているピットと見られ、掘立柱建物跡

や住居跡の柱穴になりうるものはないと判断される。

ピット内からの遺物の出土はないが、上信越自動車道の調査成果から、古墳時代から弥生時代にかけての遺構として捉えられる。



第15図 更埴条里水田址返町地点1号住居跡出土遺物実測図(1:4)

#### IV まとめ

今回の調査は、携帯電話無線基地局の建設工事に伴うもので、調査面積は67m<sup>2</sup>と狭い範囲の調査ではあったものの、平安時代の住居跡をはじめ多くの遺構が検出された。

更埴条里水田址は、その名のとおり条里制水田が広範囲にわたって確認できる遺跡で、古くからその存在は周知されており、平安時代の水田跡と仁和4年の千曲川大洪水に関してこれまでに数多くの研究がなされている。

調査地点は上信越自動車道に隣接する位置にあたり、上信越自動車道建設工事の際に、長野県埋蔵文化財センターにより発掘調査が行われているため、参考とすることができた。

今回の調査において、平安時代の埋没水田跡の検出には至らなかったが、第13図に示したとおり、1次調査面とした灰色粘質土（第4層）に砂（第3層）が被覆する状況は、これまで各所で実施されている水田跡調査の様相と大変類似しているもので、水田跡となる可能性は十分に考えられる。

1号住居跡はこの砂層と粘土層を貫いて構築されているもので、もしこの粘土層が当該地周辺で確認されている平安時代の埋没水田跡とすれば、1号住居跡は水田跡より新しい遺構となる。

1次調査面で検出された溝跡は、粗砂の覆土であり内部から軽石が多量に出土している。

平安時代水田跡の調査を行っているとき、洪水砂の中から軽石が出土することがあるが、水田跡とこの溝跡の関係については判然としない。

長野県埋蔵文化財センターが実施した上信越自動車道建設に伴う発掘調査で古墳時代から弥生時代にかけての居住域が調査されていることから、今回の調査においても検出されるものと考えられていた。そこで、1次調査面の調査終了後、2次調査面への掘り下げを行い調査を行ったが、19基の小ピットが検出されたのみで、その他の遺構は確認できなかった。また遺物も全く出土せず時代の特定期間もできていないが、周辺の調査成果から恐らく、古墳時代以前の遺構であることが考えられよう。

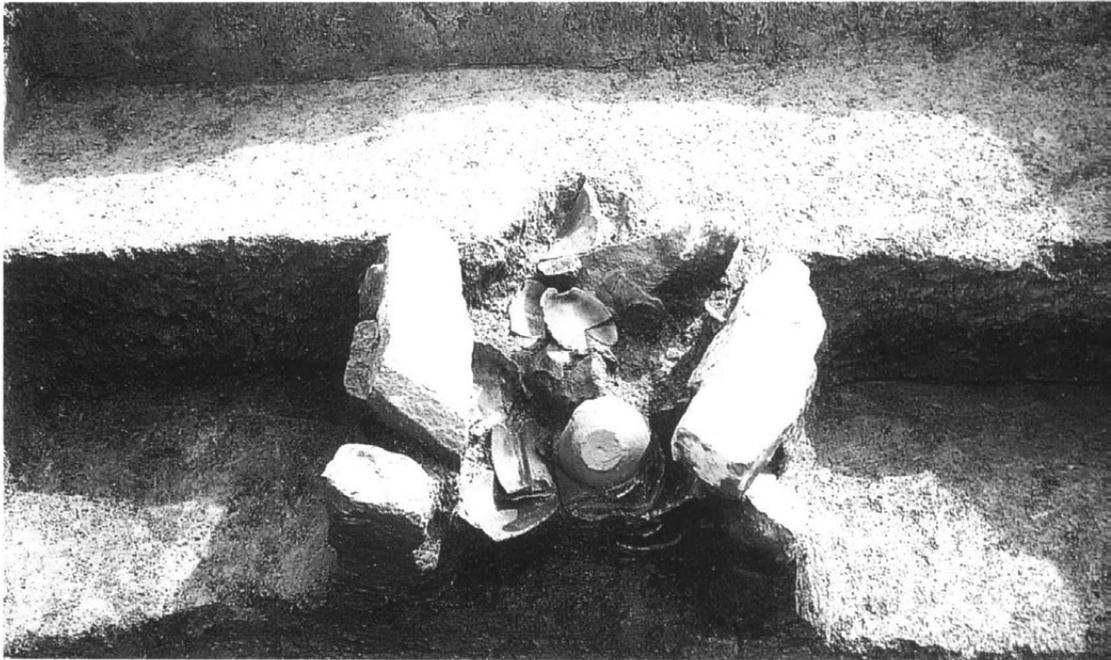
最後に、今回の調査にあたりご協力賜った関係諸氏に御礼申し上げ、まとめとする。



バックホーによる表土掘削



調査風景



1号住居跡カマド検出状況



土層断面

# 試掘調査

## (1) 大池南遺跡

### I 調査の概要

1 調査遺跡名	大池南遺跡（千曲市遺跡台帳 No. 45-1 調査記号 OMB）
2 所在地	千曲市大字八幡字八幡芝山2番地645 ほか
3 土地所有者	千曲市長 宮坂博敏
4 調査原因	大池市民の森整備事業（平成17年度 バンガロー周辺整備工事）
5 事業者	千曲市長 宮坂博敏（千曲市経済部農林課）
6 調査の内容	試掘調査 試掘トレンチ7箇所
7 調査期間	試掘調査 平成17年9月28日～平成17年9月30日 整理調査 平成18年1月4日～平成18年3月31日
8 調査費用	54,280円
9 調査主体者	千曲市教育委員会
調査担当者	寺島孝典
調査参加者	高野貞子・中村文恵・米沢須美子
10 種別・時期	集落跡・散布地 縄文時代
11 検出遺構	なし
12 出土遺物	土器片・石器 縄文時代 コンテナ1箱

### 調査経過

平成17年8月25日、千曲市経済部農林課から大池市民の森にあるバンガロー周辺の整備計画があるとの連絡があった。

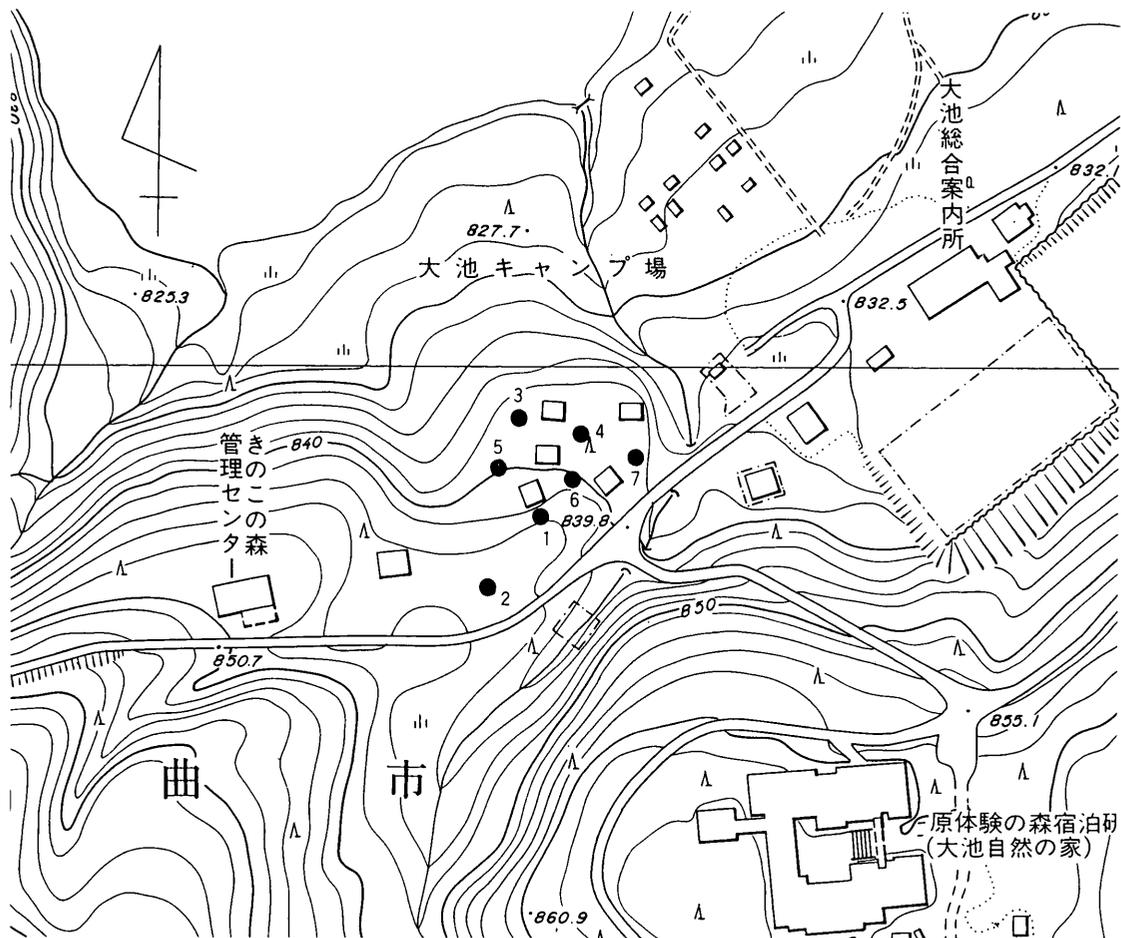
整備予定地周辺は大池南遺跡として周知されている場所であるため、事前の保護協議を実施した。

整備事業はバンガローへと向かう歩道の整備と利用者の駐車場整備とがあり、歩道部分については幅1.5mで総延長290mにも及ぶものであった。工事による掘削は20cmと浅いものであったが、車を入れるよう全面をアスファルト舗装する計画であったことから、歩道部分については発掘調査を実施することとし、駐車場造成部分については掘削を伴わないため立会調査とする方向で調整に入った。

平成17年9月2日、文化財保護法に基づく第94条が提出された際、農林課より当初予定していたアスファルト舗装をやめ、環境と景観に配慮したクッション舗装に設計変更したとの連絡を受けたことにより、全面の調査は行わず、歩道整備により破壊される恐れのある箇所を特定するため、部分的に試掘調査を実施し、遺跡の状況を確認しながら必要に応じて発掘調査を実施することとした。

調査は市民の森が利用閉鎖される9月下旬に合わせて実施することとし、平成17年9月28日に開始した。

工事予定地が広範囲であるため7箇所にトレンチを設定し調査を行ったが、整備工事により破壊される恐れのある箇所はないことから9月30日に現場における調査作業を終了した。



第16図 トレンチ位置図 (1 : 2,500)

## Ⅱ 調査の所見

当該地は標高840m付近に位置しているが起伏に富んでおり、設定したトレンチ地点の最上部と最下部では約7mを測る。

基本的な土の堆積状況はどのトレンチでも同様で、地表から厚さ10cm～20cmに腐葉土が堆積し、その下に非常にしまりのない黒色のボクボクしたシルト質土が15cm～30cm堆積する。地表下およそ50cmで礫を含んだ黄褐色のシルト質土の地山となるが、3号・5号・6号・7号の各トレンチでは、黒色土と地山との間に約10cmの暗灰褐色で粘りの強い、硬くしまったシルト質土の堆積が見られ、この層中から遺物が出土しているため遺物包含層と考えられるが、遺構は全く検出されなかった。

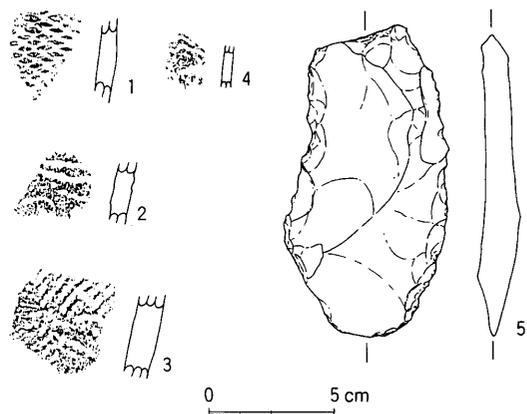
### 出土遺物

1～3は5号トレンチから、4は7号トレンチから、5は6号トレンチからそれぞれ出している。

1は菱形の押型文が施文されている。2は刺突のような文様、3は縄文が施文される。

4は山形の押型文が施文されている。

5は打製石斧である。



第17図 大池南遺跡出土遺物 (1 : 3)

報告書抄録

ふりがな	へいせいじゅうななねんど ちくましまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	平成17年度 千曲市埋蔵文化財調査報告書
副書名	
編著者名	寺島孝典 佐藤信之
編集機関	千曲市教育委員会 文化課 文化財係
所在地	〒389-0892 長野県千曲市大字戸倉2388番地 TEL026-275-0004
発行年月日	2007年3月30日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ' / ''	東経 ° / ' / ''	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
こうしよくじょうり 更埴条里 すいでんし 水田址 いかりちてん 五十里地点	ながのけんちくましおおあざやしろ 長野県千曲市大字屋代 あざいかりほんちほか 字五十里659番地3 他	20218	29	36	138	20051018	700m <sup>2</sup>	道路改良
				32	08	~		
				27	04	20051111		
こうしよくじょうり 更埴条里 すいでんし 水田址 そりまちちてん 返町地点	ながのけんちくましおおあざやしろ 長野県千曲市大字屋代 あざそりまちほんち 字返町569番地1	20218	29	36	138	20060313	67m <sup>2</sup>	携帯電話 無線基地 局建設
				32	08	~		
				28	20	20060322		
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
更埴条里水田址 五十里地点	集落跡 水田跡	平安時代 中世	住居跡 土坑 溝跡	6棟 2基 2本	弥生時代後期土器 平安時代土器	平安時代集落を調査		
更埴条里水田址 返町地点	集落跡	弥生時代 平安時代	住居跡 溝跡 ピット	1棟 2本 19基	平安時代土器	平安時代住居跡を検出		

平成17年度 千曲市埋蔵文化財調査報告書

---

発行日 平成19年3月30日  
 発行 千曲市教育委員会  
 〒398-0892 長野県千曲市大字戸倉2388番地  
 電話 (026) 275-0004  
 印刷 信毎書籍印刷株式会社  
 〒381-0037 長野市西和田1-30-3  
 電話 (026) 243-2105

---

